

(様式第 9)

獨医大病庶第 45 号  
平成 21 年 10 月 5 日

厚生労働大臣 長 妻 昭 殿

開設者名 学校法人獨協学  
理事長 寺 野

獨協医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 20 年度の業務に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	75 人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)

7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非 常 勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	514人	4.6人	518.6人	看護業務補助	70人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	21人	0.0人	21.0人	理学療法士	10人	臨床検査技師	78人
薬 剤 師	58人	人	58.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	人
保 健 師	人	人	人	視能訓練士	4人	その他	10人
助 産 師	19人	人	19.0人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	2人
看 護 師	864人	42.4人	906.4人	臨床工学技士	17人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	5人	8.5人	13.5人	栄 養 士	8人	その他の技術員	11人
歯科衛生士	4人	人	4.0人	歯 科 技 工 士	1人	事 務 職 員	215人
管理栄養士	17人	人	17.0人	診療放射線技師	62人	そ の 他 の 職 員	62人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
- 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
- 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

8 入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科及び小児歯科の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	985.5 人	21.0 人	1,006.5 人
1日当たり平均外来患者数	2,189.7 人	98.6 人	2,288.3 人
1日当たり平均調剤数			4,100.2 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

## 高度の医療の提供の実績

## 1 先進医療の届出受理の有無及び取扱い患者数

先天性血液凝固異常症の遺伝子診断	届出受理	取扱い患者数
高周波切除器を用いた子宮腺筋症核出術	有・ <input type="radio"/> 無	人
膝靭帯再建手術における画像支援ナビゲーション	有・ <input type="radio"/> 無	人
凍結保存同種組織を用いた外科治療(心臓弁又は血管を用いるものであって、組織の凍結保存及び外科治療を同一施設内で行うものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
胎児心超音波検査(産科スクリーニング胎児超音波検査において心疾患が強く疑われる症例に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	50人
インプラント義歯(顎骨の過度の吸収により、従来の可撤性義歯では咀嚼機能の回復が困難なものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	2人
顎顔面補綴(腫瘍手術、外傷及び炎症その他の原因により顔面領域に生じた広範囲の実質欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
顎関節症の補綴学的治療(顎関節症(顎関節内障、下顎頭の著しい変形及び顎関節円板の断裂を除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	5人
経皮的埋め込み電極を用いた機能的電子刺激療法(神経の障害による運動麻痺又は骨・関節手術後の筋萎縮に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
人工括約筋を用いた尿失禁の治療	有・ <input type="radio"/> 無	人
光学印象採得による陶材歯冠修復法(歯冠部齧蝕の修復に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
経皮的レーザー椎間板減圧術(内視鏡下によるものを含み、椎間板ヘルニアに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定(白血病、悪性リンパ腫又は多発性骨髄腫その他の造血器悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
スキンドファイバー法による悪性高熱症診断法(手術が予定されている者で、悪性高熱症が強く疑われる者に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
CTガイド下気管支鏡検査(肺腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	5人
先天性血液凝固異常症の遺伝子診断(アンチトロンビン欠乏症、第VII因子欠乏症、先天性アンチトロンビンIII欠乏症、先天性ヘパリンコファクターII欠乏症又は先天性プラスミノゲン欠乏症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
筋強直性又は筋緊張性ジストロフィーのDNA診断	有・ <input type="radio"/> 無	2人
SDI法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
三次元形状解析による顔面の形態的診断(頭蓋、顔面又は頸部の変形性疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験(消化器がん(根治度Cの胃がんを除く。)、頭頸部がん、乳がん、肺がん、がん性胸・腹膜炎、子宮頸がん、子宮体がん又は卵巣がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
子宮頸部前がん病変のHPV-DNA診断(子宮頸部軽度異形成に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	100人
腹腔鏡下肝部分切除術(肝外側区域切除を含み、肝腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
悪性腫瘍に対する陽子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
エキシマレーザーによる治療的角膜切除術(角膜ジストロフィー又は帯状角膜変性に係るものに限る)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	13人
成長障害のDNA診断(特発性低身長症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
門脈圧亢進症に対する経頸静脈肝内門脈大循環短絡術(内視鏡的治療若しくは薬物治療抵抗性の食道静脈瘤又は胃静脈瘤、門脈圧亢進症性胃腸症、難治性腹水又は難治性肝性胸水に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
乳房温存療法における鏡視下腋窩郭清術(主に乳房温存手術が可能なステージ又はIIの乳がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
声帯内自家側頭筋膜移植術(一側性反回神経麻痺又は声帯溝症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
骨髄細胞移植による血管新生療法(閉塞性動脈硬化症又はバージャー病(従来の治療法に抵抗性のもので、ファンタン分類III度又は同分類IV度のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
ミトコンドリア病のDNA診断(高乳酸血症その他のミトコンドリア機能低下が疑われる疾患に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
鏡視下肩峰下腔徐圧術(透析アミロイド肩関節症又は腱板断裂、五十肩若しくは関節リウマチその他の原因による肩インピンジメント症候群に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人

神経変性疾患のDNA診断(ハンチントン舞踏病、脊髄小脳変性症、球脊髄性筋萎縮症、家族性筋萎縮性側索硬化症、家族性低カリウム血症性周期性四肢麻痺又はマックリード症候群その他の神経変性疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
難治性眼疾患に対する羊膜移植術(再発翼状片、角膜上皮欠損(角膜移植によるものを含む。)、角膜穿孔、角膜化学腐食、角膜瘢痕、瞼球癒着(スティーブンス・ジョンソン症候群、眼類天疱瘡、熱・化学外傷瘢痕その他の重症の瘢痕性角結膜疾患を含む。)、結膜上皮内過形成又は結膜腫瘍その他の眼表面疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2人
重粒子線治療(固形がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
脊椎腫瘍に対する腫瘍脊椎骨全摘術(原発性脊椎腫瘍又は転移性脊椎腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
31P—磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断(糖尿病性足病変危険群と考えられる糖尿病患者に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
神経芽腫のRNA診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
硬膜外腔内視鏡による難治性腰下肢痛の治療(腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊椎管狭窄症又は腰椎手術の実施後の腰下肢痛(保存治療に抵抗性のものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
重症BCG副反応症例における遺伝子診断(BCG副反応症例又は非定形抗酸菌感染で重症、反復若しくは難治である場合に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨軟部腫瘍切除後骨欠損に対する自家液体塞塞処理骨移植	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膝腫瘍に対する腹腔鏡補助下膝切除術(インスリーマ、脾動脈瘤、粘液性嚢胞腫瘍、膝管内腫瘍その他の膝良性腫瘍に係る膝体尾部切除又は核出術に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1人
低悪性度非ホジキンリンパ腫の遺伝子診断(マントル細胞リンパ腫の補助診断として用いるものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性脳腫瘍に対する抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子解析	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
Q熱診断における血清抗体価測定及び病原体遺伝子診断(急性期又は慢性期のQ熱に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
エキシマレーザー冠動脈形成術(経皮的冠動脈形成術(エキシマレーザー冠動脈形成術を除く。))による治療が困難なもの、慢性完全閉塞のもの又はこれに準ずるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
活性化Tリンパ球移入療法(原発性若しくは続発性の免疫不全症の難治性日和見感染症又は慢性活動性EBウイルス感染症に係るものに限る)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
家族性アルツハイマー病の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
膀胱尿管逆流症に対する腹腔鏡下逆流防止術(膀胱尿管逆流症(国際分類グレードVの高度逆流症を除く。))に係るものに限る	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
泌尿生殖器腫瘍の後腹膜リンパ節転移に対する腹腔鏡下リンパ節郭清術(泌尿生殖器腫瘍のリンパ節転移例又は画像上リンパ節転移が疑われるものに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
HLA抗原不一致血縁ドナーからのCD34陽性造血幹細胞移植(HLA適合ドナーがないために造血幹細胞移植が受けられない小児のがん、難治性造血障害又は免疫不全症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
頸椎椎間板ヘルニアに対するヤグレーザーによるCT透視下の経皮的椎間板減圧術(頸椎椎間板ヘルニア(画像診断上椎間板繊維輪の破綻していないヘルニアであって、神経根症が明らかであり保存治療に抵抗性のもの(後縦靭帯骨化症、脊椎管狭窄状態又は脊椎症状のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
ケラチン病の遺伝子診断(水疱型魚鱗癬様紅皮症又は単純型表皮水疱症その他の遺伝子異常に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
末梢血幹細胞による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャヤー病(重篤な虚血性心疾患又は脳血管障害を有するものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	16人
末梢血単核球移植による血管再生治療(慢性閉塞性動脈硬化症又はパージャヤー病(従来の内科的治療又は外科的治療が無効であるものに限る、三年以内の悪性新生物の既往又は未治療の糖尿病性網膜症のあるものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
一絨毛膜性双胎妊娠において発症した双胎間輸血症候群に対する内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術(双胎間輸血症候群に罹患した一絨毛膜性双胎妊娠の症例(妊娠十六週から二十六週に限る。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
カラー蛍光観察システム下気管支鏡検査及び光線力学療法(肺がん又は気管支前がん病変に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
先天性銅代謝異常症の遺伝子診断(ウィルソン病、メンケス病又はオクシピタルホーン症候群に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
超音波骨折治療法(四肢の骨折(治療のために手術中に行われるものを除く。))のうち、観血的手術を実施したもの(開放骨折又は粉碎骨折に係るものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラレーメドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法(ヘリコバクター・ピロリ感染を伴う胃潰瘍又は十二指腸潰瘍に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
非生体ドナーから採取された同種骨・靭帯組織の凍結保存(骨又は靭帯の再建術であって、先天性疾患、外傷性(欠損性又は感染性偽関節に係るものに限る。)、骨腫瘍切除後、関節固定術時若しくは人工関節置換術時(初回又は再置換術時に限る。))の広範囲骨欠損、脊椎固定術時の骨融合促進又は靭帯断裂による関節不安定性に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
X線CT画像診断に基づく手術用顕微鏡を用いた歯根端切除手術(難治性根尖性歯周炎であって、通常の根管治療では効果が認められないものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
定量的CTを用いた有限要素法による骨強度予測評価(骨粗鬆症、骨変形若しくは骨腫瘍又は骨腫瘍掻爬術後若しくは骨髄炎掻爬術後の症状に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
膀胱水圧拡張術(間質性膀胱炎に係るものに限る。)	<input checked="" type="radio"/> 有・無	5人
色素性乾皮症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
先天性高インスリン血症に係る遺伝子診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法(歯周炎による重度垂直性骨欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
セメント固定人工股関節再置換術におけるコンピュータ支援フルオロナビゲーションを用いたセメント除去術(人工股関節のたるみに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下直腸固定術(直腸脱に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	2人
骨移動術による関節温存型再建(骨軟部腫瘍切除後の骨欠損に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
肝切除手術における画像支援ナビゲーション(原発性肝がん、肝内胆管がん、転移性肝がん又は生体肝移植ドナーに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	35人
樹状細胞及び腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法(腫瘍抗原を発現する消化管悪性腫瘍(食道がん、胃がん又は大腸がん)、進行再発乳がん又は原発性若しくは転移性肺がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
自己腫瘍・組織及び樹状細胞を用いた活性化自己リンパ球移入療法(がん性の胸水、腹水又は進行がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
リアルタイムPCRを用いた迅速診断(EBウイルス感染症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
内視鏡下小切開泌尿器腫瘍手術(尿管腫瘍、膀胱腫瘍、後腹膜腫瘍、後腹膜リンパ節腫瘍(精巣がんから転移したものに限る。))又は骨盤リンパ節腫瘍(泌尿器がんから転移したものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	8人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術(白内障に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	2人
先天性難聴の遺伝子診断(遺伝性による先天性難聴が疑われるものに限る。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
フェニルケトン尿症の遺伝子診断(フェニルケトン尿症、高フェニルアラニン血症又はヒオプテリン反応性フェニルアラニン水酸化酸素欠損症に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
培養細胞による先天性代謝異常診断(先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))に罹患する可能性の高い胎児もしくは新生児又は先天性代謝異常(ライソゾーム病に限る。))が疑われる小児に係るものであって、酸素補充療法による治療が出来ないものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
腹腔鏡下子宮体がん根治手術(手術進行期分類Ib期までの子宮体がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
培養細胞による脂肪酸代謝異常症又は有機酸代謝異常症の診断	有・ <input type="radio"/> 無	人
PET遺伝子診断(甲状腺髄様癌に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
角膜ジストロフィの遺伝子解析(角膜ジストロフィと診断された症例に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
強度変調放射線治療(限局性の固形悪性腫瘍(頭頸部腫瘍、前立腺腫瘍又は中枢神経腫瘍であって、原発性のものを除く。))に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
マイクロ波子宮内膜アブレーション(機能性及び器質性過多月経(ただし、妊孕性の温存が必要な場合又は子宮内膜がん、異型内膜増殖症その他の悪性疾患又はその疑いがある場合を除く。))であって、子宮壁厚十ミリメートル以上の症例に係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
抗EGFR抗体医薬投与前におけるKRAS遺伝子変異検査(EGFR陽性の治癒切除不能な進行又は再発の結腸又は直腸がんに係るものに限る。)	有・ <input type="radio"/> 無	人
光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助(ICD-10(統計法第二十八条及び附則第三条の規定に基づき、疾病、し傷害及び死因に関する分類の名称及び分類表を定める件(平成二十一年総務省告示第百七十六号の「(1)疾病、傷害及び死因の統計分類基本分類表」に規定する分類をいう。))においてF2(統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害)に分類される疾病及びF3(気分(感情)障害)に分類される疾病のいずれかの疾病の患者であることが強く疑われるうつ症状の者(器質的疾患に起因するうつ症状の者を除く。))に係るものに限る。))	有・ <input type="radio"/> 無	人

内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術(下肢慢性静脈不全症(下腿の広範囲の皮膚に色素沈着、硬化若しくは萎縮が起こり、又は潰瘍を有するとともに、超音波検査により穿通枝の血液が逆流していることが確認され、かつ、従来の外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
歯科用CAD・CAMシステムを用いたハイブリッドレジンによる歯冠補綴(小臼歯の重度の齲蝕に対して全部被覆冠による歯冠補綴が必要な場合に限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
大腸腫瘍に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(早期大腸がん(EMR(内視鏡的粘膜切除術をいう。以下同じ。))では一括切除が困難な二センチメートル以上の病変であって、拡大内視鏡診断又は超音波内視鏡診断による十分な術前評価の結果、根治性が期待できるものに限る。)又は腺腫(EMRを実施した際の病変の挙上不良なもの又はEMRを実施した後に遺残又は再発したものであってEMRでは切除が困難な一センチメートル以上の病変のものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
実物大臓器立体モデルによる手術支援(骨盤、四肢骨又は関節に著しい変形又は欠損を伴う疾患又は外傷に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術(頸部良性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の遺伝子診断	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術(転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎骨折又は難治性疼痛を伴う椎体圧迫骨折若しくは臼蓋骨折に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3人
悪性黒色腫又は乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	68人
カフェイン併用化学療法(骨肉腫、悪性腺維性組織球腫、滑膜肉腫又は明細胞肉腫その他の骨軟部悪性腫瘍に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児尿路・羊水腔シャント術(プルーン・ベリー症候群その他の胎児閉塞性尿路疾患に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
筋過緊張に対するmuscle afferent block(MAB)治療(ジストニア、痙性麻痺その他の局所の筋過緊張を呈する病態に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2人
胸部悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(胸部悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	3人
腎悪性腫瘍に対するラジオ波焼灼療法(腎悪性腫瘍(従来の外科的治療法の実施が困難なもの又は外科的治療法の実施により根治性が期待できないものに限る。))	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1人
内視鏡下甲状腺がん手術(手術の実施後、予後の良い甲状腺乳頭がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
骨腫瘍のCT透視ガイド下経皮的ラジオ波焼灼療法(転移性骨腫瘍で既存の治療法により制御不良なもの又は類骨腫(診断の確実なものに限る。)に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
下肢静脈瘤に対する血管内レーザー治療法(一次性下肢静脈瘤に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
胎児胸腔・羊水腔シャントチューブ留置術(特発性又は既知の胎児先天性感染による胸水を主たる徴候とする非免疫性胎児水腫症(NIHIF)例であって、胸腔穿刺後一週間以降に胸水の再貯留が認められるもの(妊娠二十週から三十四週未満に限る。))	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
早期胃がんに対する腹腔鏡下センチネルリンパ節検索	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
副甲状腺内活性型ビタミンD(アナログ)直接注入療法(二次性副甲状腺機能亢進症に係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
腹腔鏡補助下肝切除術(部分切除及び外側区域切除を除く。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人
根治的前立腺全摘除術における内視鏡下手術用ロボット支援(前立腺がんに係るものに限る。)	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	人

(注)1 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

2 先進医療で上の表に掲げられていないものを行っている場合は、その他の高度医療欄に記入すること。

その他の高度医療

医療技術名	修正型電気痙攣療法	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要			
難治性うつ病、薬物治療抵抗性の統合失調症患者に対して、麻酔科医の協力の下、筋弛緩薬を投与し、痙攣をした状態にて、サイマトロンを用いて行っている。施行患者数は年間約80名、施行件数は約400件である。			
医療技術名	脳電図トポグラフィ	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要			
20channel脳電図LORETA解析による前頭葉機能障害の判定、治療。			
医療技術名	光干渉断層法(OCT)を用いた冠動脈プラーク診断と冠血管形成術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要			
光干渉断層法(OCT)により冠動脈プラークの組織性状を診断し、その結果によりバルーン・ステントを選択し、冠血管形成術を行う。こうした方法により冠血管形成術の合併症を予防し、長期予後改善が期待出来る。			
医療技術名	埋込型除細動器移植術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
自動的に致死性心室性頻拍を感知し高頻度刺激やショックパルスを発生し除細動を行う装置を体内に埋め込むもの。			
医療技術名	血管内超音波検査	取扱患者数	80人
当該医療技術の概要			
冠動脈の動脈硬化（石灰化、アテローム硬化、血栓の有無）などについて詳細な評価を行う。			
医療技術名	経皮的冠動脈血栓吸引術	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要			
冠動脈内の血栓に対して吸引カテーテル(レスキュー、スロンバスター、パークサージ)にて血栓を吸引除去するもの。			
医療技術名	血漿交換療法	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
劇症肝炎やギラン・バレー症候群における障害因子を除去するために体外循環を行い血漿を濾過置換する。			
医療技術名	血液吸着療法	取扱患者数	28人
当該医療技術の概要			
膠原病において自己免疫性の障害因子を除去するために体外循環によるカラム吸着療法を行う。 その他、LDL吸着やエンドトキシン吸着などがある。			
医療技術名	心室再同期療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
冠静脈洞および右室にペースメーカーリードを挿入し、左右心室を同時に刺激するペースメーカー装置を体内に埋め込むもの。			



## 2 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱い患者数	疾患名	取扱い患者数
・ベーチェット病	135人	・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	41人
・多発性硬化症	78人	・ウェゲナー肉芽腫症	14人
・重症筋無力症	102人	・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	148人
・全身性エリテマトーデス	330人	・多系統萎縮症	58人
・スモン	2人	・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人
・再生不良性貧血	50人	・膿疱性乾癬	27人
・サルコイドーシス	166人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・筋萎縮性側索硬化症	58人	・原発性胆汁性肝硬変	45人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	335人	・重症急性膵炎	10人
・特発性血小板減少性紫斑病	176人	・特発性大腿骨頭壊死症	27人
・結節性動脈周囲炎	45人	・混合性結合組織病	53人
・潰瘍性大腸炎	405人	・原発性免疫不全症候群	8人
・大動脈炎症候群	17人	・特発性間質性肺炎	22人
・ビュルガー病	15人	・網膜色素変性症	46人
・天疱瘡	19人	・プリオン病	2人
・脊髄小脳変性症	80人	・原発性肺高血圧症	7人
・クローン病	159人	・神経線維腫症	28人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・悪性関節リウマチ	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・パーキンソン病関連疾患	291人	・特発性慢性肺血栓栓症(肺高血圧型)	10人
・アミロイドーシス	2人	・ライソゾーム病(ファブリー[Fabry]病)含む	1人
・後縦靭帯骨化症	81人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・ハンチントン病	1人		

(注) 「取扱い患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

## 3 病院・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。		
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	1か月に1回程度		
剖検の状況	剖検症例数	60 例	剖検率 10.9 %



## 高度の医療技術の開発及び評価の実績

## 研究費補助金等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
転座型白血病の分子機構と分子標的療法	三谷 絹子	内科学(血液)	8,500,000	補委 文部科学省
新しく確立した乳幼児急性脳症における中枢性ベンゾジアゼピン受容体の脳内分布	今高 城治	小児科学	1,100,000	補委 文部科学省
ゲノム薬理学的手法によるパニック障害治療における最適なパロキセチン血中濃度の探索	佐伯 吉規	精神神経医学	1,100,000	補委 文部科学省
ハチアレルギーにおける重症度マーカーの解析とIgEをターゲットとした治療の研究	平田 博国	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,500,000	補委 文部科学省
ゲノム薬理学的手法によるパニック障害治療におけるファーマコダイナミクス解析	上田 幹人	精神神経医学	1,000,000	補委 文部科学省
自己免疫性ニューロパチーの新規標的分子同定と疾患モデル樹立	船越 慶	内科学(神経)	2,400,000	補委 文部科学省
頸動脈推定血圧の有効性と脳卒中発症の関連についての研究	竹川 英宏	内科学(神経)	600,000	補委 文部科学省
虹彩レーザー治療後の水疱性角膜症に対する活性酸素の影響に関する研究	高山 良	眼科学	700,000	補委 文部科学省
食道再建における吻合部位の治癒過程に関する実験的研究	沖 正直	形成外科	500,000	補委 文部科学省
転写因子による造血制御機構の解析	三谷 絹子	内科学(血液)	4,600,000	補委 日本学術振興会
Runx1の標的遺伝子の網羅的スクリーニングおよび発生工学的機能解析	山形 哲也	内科学(血液)	700,000	補委 日本学術振興会
難治性小児白血病におけるアポトーシス抑制蛋白SURVIVINの発現機構の解明	黒澤 秀光	小児科学	1,000,000	補委 日本学術振興会
パニック障害に対するオーダメイド薬物治療計画立案のためのゲノム薬理学的研究	下田 和孝	精神神経医学	1,100,000	補委 日本学術振興会
嗅粘膜分泌異常における活性好酸球の関与～嗅覚障害の発症と改善のメカニズムの解明	春名 真一	耳鼻咽喉科学	600,000	補委 日本学術振興会
サイログロブリン遺伝子異常における甲状腺腫発生機構の解明	家入 蒼生夫	臨床検査医学	1,100,000	補委 日本学術振興会
CGHアレイによる統合失調症リスク遺伝子の検索と機能解析	尾關 祐二	精神神経医学	1,700,000	補委 日本学術振興会
頸動脈小体と低酸素性化学受容体伝達の遺伝学的個体差について検討	山口 重樹	麻酔科学	500,000	補委 日本学術振興会
循環調節ペプチドを利用した診断・管理・治療に関するトランスレーショナルリサーチ	錦見 俊雄	内科学(循環器)	1,800,000	補委 日本学術振興会
テトラヒドロピオプテリンの血管内皮保護作用とその機序に関する検討	服部 良之	内科学(内分泌代謝)	1,900,000	補委 日本学術振興会
白血病に対するデオイペプチドを用いた新規分子標的療法の開発に関する研究	牧 和宏	内科学(血液)	1,500,000	補委 日本学術振興会
パーソナリティ障害合併の気分障害・不安障害の発症・経過・転帰決定因子の探索研究	大曾根 彰	精神神経医学	700,000	補委 日本学術振興会
胎生期性ホルモンの空間認知能への影響を粘土の造形表現からみた検討	有阪 治	小児科学	200,000	補委 日本学術振興会
IgG4関連肺疾患の存在と病態の解析	熊野 浩太郎	内科学(呼吸器・アレルギー)	1,600,000	補委 日本学術振興会

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
骨髄異形成症候群に対する病態解明・治療法に関する研究	三谷 絹子	内科学（血液）	21,000,000	補委	厚生労働省
ポジトロンCTのがん診断への応用と診断制度向上に関する研究	村上 康二	PETセンター	12,116,000	補委	厚生労働省
生存率とQOLの向上を目指したがん切除後の形成再建手技の標準化	朝戸 裕貴	形成外科	2,000,000	補委	厚生労働省
小児等の特殊患者に対する医薬品の製剤改良その他有効性及び安全性の確保のあり方に関する研究	有阪 治	小児科学	500,000	補委	厚生労働省
NSAIDS不耐症の病態解明と診断治療指針作成に関する研究	春名 眞一	耳鼻咽喉科	2,500,000	補委	厚生労働省
高血圧管理におけるガイドラインの遵守と目標達成度に関する研究	南 順一	内科学（循環器）	1,200,000	補委	厚生労働省
新しい診断機器の検診への応用とこれらを用いた診断制度の向上に関する研究	中村 哲也	消化器内視鏡センター	3,000,000	補委	厚生労働省
画像によるがんの診断、治療法選択、治療効果判定に関する研究	楳 靖	放射線医学	1,000,000	補委	厚生労働省
急性心筋梗塞病と脳卒中に対する超急性期診療体制の構築に関する研究	菊地 研	内科学（心血管・肺）	500,000	補委	厚生労働省
新規に発生しているレンサ球菌による劇症型感染症の臨床的・細菌学的解析と診断・治療に関する研究	吉田 敦	臨床検査医学	1,000,000	補委	厚生労働省
脊柱靭帯骨化症に関する調査研究	野原 裕	整形外科	1,000,000	補委	厚生労働省
同産期・小児・生殖医療におけるHIV感染対策に関する集学的研究	大島 教子	産科婦人科学	2,600,000	補委	厚生労働省
子宮体がんに対する標準化学療法確立に関する研究	深澤 一雄	産科婦人科学	1,000,000	補委	厚生労働省
睡眠医療における医療機関関連ガイドラインの有効性検証に関する研究	宮本 雅之	内科学（神経）	600,000	補委	厚生労働省
重症心身障害児（者）の病因・病態解明、治療・療育、および施設のあり方に関する研究	山内 秀雄	小児科学	1,000,000	補委	厚生労働省
職業性石綿ばく露による肺・胸膜病変の経過観察と肺がん・中皮腫発生に関する研究	荒川 浩明	放射線医学	主任一括計上	補委	厚生労働省
片頭痛に対する画期的治療法の開発に関する研究	平田 幸一	内科学（神経）	主任一括計上	補委	厚生労働省
乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験	高田 悦雄	超音波センター	主任一括計上	補委	厚生労働省
全国規模の他施設共同ランダム化比較試験と背景因子分析に基づく早産予防ガイドラインの作成	渡辺 博	総合周産期母子医療センター	主任一括計上	補委	厚生労働省
抗精神病薬と抗うつ薬のファーマコジェネティクス	下田 和孝	精神神経医学	主任一括計上	補委	厚生労働省
miRNAによる造血制御機構の解析	三谷 絹子	内科学（血液）	4,000,000	補委	文部科学省
急性および慢性虚血モデルにおける特異蛋白の探索とProteomics解析	小林 直彦	内科学（循環器）	4,000,000	補委	文部科学省
循環調節因子の心血管系疾患の診断・治療への基礎と臨床応用	錦見 俊雄	内科学（循環器）	4,000,000	補委	文部科学省
低アディポネクチン血症の成因と治療	服部 良之	内科学（内分泌代謝）	4,000,000	補委	文部科学省
トランスジェニックマウスを用いたプレオマイシン誘発肺線維症モデルの病態機序の解析	福田 健	内科学（呼吸器・アレルギー）	3,800,000	補委	文部科学省
ラット全胎児培養を用いた肝再生法の確立	澤田 登起彦	第二外科学	4,000,000	補委	文部科学省
HBV侵淫地域（中国、アフリカ）における新しいHBV母子感染予防法（獨協医大方式）の協同臨床治験	稲葉 憲之	産科婦人科学	3,104,000	補委	文部科学省

計50

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Jpn J Clin Oncol. Jan 39:33-36. Epub 2008.	Comparison of 5-fluorouracil-related gene expression levels between adenocarcinomas and squamous cell carcinomas of the lung.	Ishihama H, Chida M, Araki O, Karube Y, Seki N, Tamura M, Umezumi H, Honma K, Masawa N, Miyoshi S	病理学 (形態)
J Clin Exp Hematop 48:39-45, 2008.	Follicular variant of hyaline-vascular type of Castleman's disease: histopathological and immunohistochemical study of 11 cases.	Kojima M, Shimizu K, Ikota H, Ohno Y, Motoori T, Itoh H, Masawa N, Nakamura S	病理学 (形態)
Pediatr Blood Cancer. 50:1274-1276, 2008.	Hepatoblastoma in a Noonan syndrome patient with a PTPN11 mutation.	Yoshida R, Ogata T, Masawa N, Nagai T	病理学 (形態)
日本臨床細胞学会誌47: 377-380, 2008	術中腹水細胞診で推定しえたdesmoplastic small cell tumorの一例	土田秀、小島勝、上山晴美、田中良太、中里宣正、飯島美砂、杉原志郎、正和信英	病理学 (形態)
羊土社 東京, pp186-195, 2008	第13章前立腺 下正宗編, 正常画像と比べてわかる病理アトラス	下正宗, 新井富生, 武内英二, 寺島剛, 菅井有, 村田哲也, 鬼島宏, 立山義明, 西原隆, 森谷卓也, 津田均, 山本宗平, 小山徹也, 瀬川篤記, 長嶋洋治, 矢尾正祐, 稲山高明, 都築豊徳, 青木一郎, 前田隆, 石田剛, 鈴木博義	病理学 (形態)
The Journal of pediatrics 152:445-6, 2008.	Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant: final update with autopsy findings.	Nitta A, Nishikura K, Fukuda H, Yoshihara S, Hirao J, Arisaka O, Matsuda H :	病理学 (形態)
A report of two cases. Pathology oncology research : POR 14:489-492, 2008.	Tonsillar lesions of infectious mononucleosis resembling MALT type lymphoma.	Kojima M, Kitamoto Y, Shimizu K, Matsuda H, Masawa N	病理学 (形態)
医学書院, 2008.	消化管の病理学 第2版.	藤盛孝博	病理学 (人体分子)
Gastroenterology 135:889-898, 2008.	Activation-induced cytidine deaminase links between inflammation and the development of colitis-associated colorectal cancers.	Endo Y, Marusawa H, Kou T, Nakase H, Fujii S, Fujimori T, Kinoshita K, Honjo T, Chiba T	病理学 (人体分子)
Am J Gastroenterology 103:2700-2706, 2008.	Efficacy of the invasive/ non-invasive pattern by magnifying chromoendoscopy to estimate the depth of invasion of early colorectal neoplasms.	Matsuda T, Fujii T, Saito Y, Nakajima T, Uraoka T, Kobayashi N, Ikehara H, Ikenatsu H, Fu KI, Emura F, Ono A, Sano Y, Shimoda T, Fujimori T	病理学 (人体分子)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Gastroenterology 103: 1926-1932, 2008.	Does autofluorescence imaging videoendoscopy system improve the colonoscopic polyp detection rate?--a pilot study.	Matsuda T, Saito Y, Fu KI, Uraoka T, Kobayashi N, Nakajima T, Ikehara H, Mashimo Y, Shimoda T, Murakami Y, Parra-Blanco A, Fujimori T, Saito D	病理学 (人体分子)
Carcinogenesis29:76-83, 2008.	REG I $\alpha$ protein mediates an anti-apoptotic effect of STAT3 signaling in gastric cancer cells.	Sekikawa A, Fukui H, Fujii S, Ichikawa K, Tomita S, Imura J, Chiba T, Fujimori T	病理学 (人体分子)
J Pathol 216: 32-42, 2008.	EXTL3 promoter methylation down-regulates EXTL3 and heparan sulphate expression in mucinous colorectal cancers.	Karibe T, Fukui H, Sekikawa A, Shiratori K, Fujimori T	病理学 (人体分子)
Br J Cancer 98: 1682-1689, 2008.	Expression of SDF-1 alpha and nuclear CXCR4 predicts lymph node metastasis in colorectal cancer.	Yoshitake N, Fukui H, Yamagishi H, Sekikawa A, Fujii S, Tomita S, Ichikawa K, Imura J, Hiraishi H, Fujimori T	病理学 (人体分子)
Surg Today 38: 115-122, 2008	Depth of tumor invasion in locally advanced rectal cancer correlates with patients' prognosis: The usefulness of elastic stain for its measurement.	Katsumata D, Fukui H, Ono Y, Ichikawa K, Tomita S, Imura J, Abe A, Fujita M, Watanabe O, Tsubaki M, Sunagawa M, Fujimori T	病理学 (人体分子)
Int J Cancer 122: 317-324, 2008.	The CD155/poliiovirus receptor enhances the proliferation of ras-mutated cells.	Kono T, Imai Y, Yasuda S, Ohmori K, Fukui H, Ichikawa K, Tomita S, Imura J, Kuroda Y, Ueda Y, Fujimori T	病理学 (人体分子)
Oncol Rep 19: 393-399, 2008.	Inhibitory effects of the cyclooxygenase-2 inhibitor, etodolac, on colitis-associated tumorigenesis in p53-deficient mice treated with dextran sulfate sodium.	Mukawa K, Fujii S, Tomioka K, Yoshitake N, Abe A, Kono T, Sekikawa A, Fukui H, Ichikawa K, Tomita S, Imura J, Ono Y, Shinoda M, Hiraishi H, Fujimori T	病理学 (人体分子)
Oncol Rep 19:609-616, 2008	Expression and cellular localization of TSC-22 in normal salivary glands and salivary gland tumors:Implications for tumor cell differentiation.	Doi Y, Kawamata H, Ono Y, Fujimori T, Imai Y	病理学 (人体分子)
Pathol Int 58:306-310, 2008.	Sclerosing variant of epithelioid angiomyolipoma.	Matsuyama A, Hisaoka M, Ichikawa K, Fujimori T, Udo K, Uchihashi K, Aoki S, Hashimoto H	病理学 (人体分子)
Gastrointest Endosc 67:1000-1004, 2008.	A solitary colonic metastasis from gastric cancer detected at an early stage.	Nakamura H, Fu K, Fukui H, Hurlstone DP, Kaji Y, Ishikawa T, Fujimori T	病理学 (人体分子)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Surg Pathol 16: 62, 2008.	Hemorrhagic enteritis due to poisonous mushroom.	Hori K, Fukui H, Fujimori T	病理学 (人体分子)
Digestion 77: 2-12, 2008.	Limits of diagnosis and molecular markers for early detection of ulcerative colitis-associated colorectal neoplasia.	Fujii S, Katsumata D, Fujimori T	病理学 (人体分子)
Int J Cancer 15:317-324, 2008.	The CD155/poliiovirus receptor enhances the proliferation of ras-mutated cells.	Kono T, Imai Y, Yasuda S, Ohmori K, Fukui H, Ichikawa K, Tomita S, Imura J, Kuroda Y, Ueda Y, Fujimori T	病理学 (人体分子)
内視鏡的に切除し得た巨大過形成性ポリープの1例.	内視鏡的に切除し得た巨大過形成性ポリープの1例.	里村仁志, 佐々木欣郎, 深町伸, 萩原信悟, 円谷美也子, 田口泰三, 依田紀仁, 宮地和人, 砂川正勝, 市川一仁	病理学 (人体分子)
病理と臨床 26: 855-857, 2008.	大腸癌取扱い規約に基づく SM 癌浸潤距離の測定法.	市川一仁, 藤盛孝博	病理学 (人体分子)
World J Surg Oncol 6: 48-51. 2008.	Middle bile duct cancer with portal vein tumor thrombus.	Shimoda M, Iso Y, Tomita S, Fujimori T, Murakami K, Sawada T, Kubota K	病理学 (人体分子)
消化器内視鏡20:282-289, 2008.	ESD 食道・大腸への展開 病理診断からみたESDの意義と問題点.	藤井茂彦, 市川一仁, 富田茂樹, 佐藤英章, 関川昭, 福井広一, 井村穰二, 加藤洋, 藤盛孝博	病理学 (人体分子)
消化器内視鏡 20: 63-169. 2008 (2008.02)	NSAIDs関連病変は変わった NSAIDs関連小腸病変の病理学的特徴.	山岸秀嗣, 中村哲也, 福井広一, 富田茂樹, 加藤洋, 藤盛孝博	病理学 (人体分子)
消化器外科 31: 551-559, 2008.	胃癌のすべて 胃癌の基礎 胃癌の病理 胃癌組織の多様性.	藤盛孝博, 福井広一, 藤井茂彦, 富田茂樹, 関川昭, 市川一仁, 山岸秀嗣, 佐藤英章, 加藤洋, 川又均, 今井裕	病理学 (人体分子)
Modern Physician 28: 1026-1033, 2008.	消化器癌 21世紀のサーベイランス 潰瘍性大腸炎に合併する大腸腫瘍とサーベイランス.	藤井茂彦, 市川一仁, 富田茂樹, 関川昭, 福井広一, 井村穰二, 藤盛孝博	病理学 (人体分子)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
メディカルレビュー社. Surgery Frontier 15: 101-103, 2008.	特集：侵襲をめぐるQ&A 癌の発生・進展における COX-2 の意義 について教えてください.	福井広一	病理学 (人体分子)
大腸癌 FRONTIER 1:119- 123, 2008.	大腸 SM 癌の内視鏡的切除後の根治度判定	山岸秀嗣, 福井広一, 加藤洋, 藤盛孝博	病理学 (人体分子)
モダンフィジシャン 28: 1026-1033, 2008.	潰瘍性大腸炎に合併する大腸腫瘍とサーベイランス.	藤井茂彦, 市川一仁, 富田茂樹, 関川昭, 福井広一, 井村穰二, 藤盛孝博	病理学 (人体分子)
GI Research 16: 285- 289, 2008.	特集 消化管生理活性ペプチドの最新知見. ガストリン.	関川昭, 福井広一, 千葉勉	病理学 (人体分子)
特集 消化管生理活性ペ プチドの最新知見	特集 消化管生理活性ペプチドの最新知見	関川 昭, 福井広一, 千葉 勉.	病理学 (人体分子)
Clin Exp Immunol. 155:16-20, 2008.	Involvement of REG Ialpha protein in the regeneration of ductal epithelial cells in the minor salivary glands of patients with Sjögren's syndrome.	Kimura T, Fukui H, Sekikawa A, Yamagishi H, Ichikawa K, Tomita S, Fujii S, Imura J, Kawamata H, Chiba T, Imai Y, Fujimori T	病理学 (人体分子)
ISDE.10-13, 2008.	Esophageal capsule endoscopy versus magnifying endoscopy for detecting esophageal lesions.	Nakamura T, Yamagishi H, Oinuma T, Masuyama H, Terano A	病理学 (人体分子)
手術 62:399-401, 2008.	カプセルおよびダブルバルーン内視鏡診断後, 腹腔鏡下に切除し た小腸カルチノイドの 1 例	多賀谷信美, 阿部 暁人, 濱田清誠, 山岸秀嗣, 平石秀 幸, 窪田敬一	病理学 (人体分子)
pp395-404 医歯薬出版 東 京 2008	モンテプラゼ (monteplase) -冠動脈内血栓溶解療法 抗凝固薬 の適正な使い方第二版 櫻川信男, 上塚芳郎, 和田英夫/編	井上晃男	内科学 (心臓・血管)
Atherosclerosis 196: 469-476, 2008	Increased circulating platelet-derived microparticles are associated with stent-induced vascular inflammation.	Inoue T, Komoda H, Kotooka N, Morooka T, Fujimatsu D, Hikichi Y, Soma R, Uchida T, Node K	内科学 (心臓・血管)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Int J Cardiol 124:319-325, 2008	Interleukin-8 as an independent predictor of long-term clinical outcome in patients with coronary artery disease..	Inoue T, Komoda H, Nonaka M, Kameda M, Uchida T, Node K	内科学 (心臓・血管)
J Cardiol 52:127-132, 2008	Tropical fruit camu-camu (myrciaria dubia) has anti-oxidative and anti-inflammatory properties.	Inoue T, Komoda H, Uchida T, Node K	内科学 (心臓・血管)
Atherosclerosis 201:385-391, 2008	Lipocalin-type prostaglandin D synthase is a powerful biomarker for severity of stable coronary artery disease.	Inoue T, Eguchi Y, Matsumoto T, Kijima Y, Kato Y, Ozaki Y, Waseda K, Oda H, Seiki K, Node K, Urade Y	内科学 (心臓・血管)
Expert Opin Pharmacother 9:1397-1406, 2008	Telmisartan as a metabolic sartan for targeting vascular failure.	Inoue T, Node K	内科学 (心臓・血管)
Hypertens Res 31:2105-2113, 2008	Flow-Mediated Vasodilation as a Diagnostic Modality for Vascular Failure.	Inoue T, Matsuoka H, Higashi Y, Ueda S, Sata M, Shimada K, Ishibashi Y, Node K	内科学 (心臓・血管)
Clinical Cardiology31:567-571,2008.	Risk of heart failure due to a combination of mild mitral regurgitation and impaired distensibility of the left ventricle in patients with old myocardial infarction.	Inami S, Matsuda R, Toyoda S, Hata Y, Taguchi I, Abe S	内科学 (心臓・血管)
第19回日本エコー図学会, 神戸市, 2008.	左房粘液腫と鑑別が困難であった無症候性傍大動脈異所性褐色細胞腫の一例.	大谷直由, 豊田茂, 伊波秀, 荒木秀彦, 有川拓男, 鈴木英彦, 田口功, 阿部七郎, 松田隆子, 金子昇, 望月吉彦	内科学 (心臓・血管)
日本医師会雑誌 137 : 1894-1895, 2008	医療係争事例から学ぶ 大腸内視鏡による穿孔	平石秀幸	内科学 (消化器)
治療 90 (臨増) : 50-51, 2008	【2ページで解説! 診療ガイドダイジェスト】 消化器 胃潰瘍.	平石秀幸	内科学 (消化器)
Progress of Digestive Endoscopy 72:64-65, 2008.	H. pylori除菌抵抗性MALTリンパ腫に対して放射線療法は有効であった1例.	菅谷武史, 富永圭一, 渡辺秀考, 菅家一成, 室久俊光, 増山仁徳, 中村哲也, 菅谷 仁, 平石秀幸	内科学 (消化器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
124-125、じほう、東京2008.	EBMに基づく胃潰瘍診療ガイドラインQ&A、胃潰瘍ガイドラインの適応と評価に関する研究班編	田嶋章弘、島田忠人、平石秀幸	内科学(消化器)
J Gastroenterol Hepatol. Suppl. 2;S237-241, 2008.	Proton pump inhibitors and recurrent bleeding in peptic ulcer disease.	Tajima A, Koizumi K, Suzuki K, Higashi N, Takahashi M, Shimada T, Terano A.	内科学(消化器)
モダンフィジシャン 28 : 989-993, 2008.	Barrette腺癌とサーベイランス.	田嶋章弘、東奈央子、島田忠人、平石秀幸	内科学(消化器)
Hepatogastroenterology, 55,197-201,2008	Des-gamma-carboxy prothrombin (DCP) ratio is a useful prognostic tumor marker for single nodule hepatocellular carcinoma (HCC),	Murakami N, Tamano M, Yoneda M, Sugaya H, Hiraishi H	内科学(消化器)
Dig Liver Dis, 40,371-8,2008	Noninvasive assessment of liver fibrosis by measurement of stiffness in patients with nonalcoholic fatty liver disease (NAFLD),	Yoneda M, Mawatari H, Fujita K, Ende H, Iida H, Nozaki Y, Yonemitsu K, Higuroshi T, Takahashi H, Kobayashi N, Kirikoshi H, Abe Y, Inanori M, Kubota K, Saito S, Tamano M, Hiraishi H, Masyama S, Yanaguchi N, Togo S, Nakajima A.	内科学(消化器)
J Med Ultrasonics, 35,129-132,2008	Left-sided hepatic hydrothorax diagnosed by contrast-enhanced ultrasonography with intraperitoneal injection of Levovist	Tamano M, Hashimoto T, Kojima K, Yoneda M, Watanabe H, Hoshino T, Matsuura A, Shioya C, Sugaya H, Hiraishi H	内科学(消化器)
消化器内視鏡, 20:1722-1727, 2008	超高齢者消化管癌に対する光線力学的療法(PDT)の有用性と問題点.	中村哲也, 生沼健司, 渡辺秀考, 室久俊光, 玉野正也, 平石秀幸, 寺野彰.	内科学(消化器)
中外医学社 東京 2008.	肝硬変の成因別実態2008 : 肝硬変の成因別実態2008 恩地森一	室久俊光、菅谷仁、中野正和、橋本敬、玉野正也、飯島誠、平石秀幸	内科学(消化器)
Gastrointest Endosc ;50:1375-1377,2008.	日本消化器内視鏡学会専門医学術試験問題とその解説第122回	室久俊光	内科学(消化器)
Dig Dis Sci 2008.	A Randomised prospective trial comparing unsedated endoscopy via transnasal and transoral using 5.5mm video endoscopy.	Watanabe H, Watanabe N, Ogura R, Nishino N, Saifuku Y, Hitomi G, Okamoto Y, Tominaga K, Yoshitake N, Yamagata M, Orui M, Hiraishi H	内科学(消化器)



2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器内視鏡20:419-425, 2008.	【経鼻内視鏡は本当に楽なのか?】 極細径経口内視鏡との比較.	渡辺秀考, 渡辺菜穂美, 小倉利恵子, 西福康之, 人見玄洋, 岡本裕, 大類方己, 中村哲也	内科学 (消化器)
分子病態学 中外医学社, pp208-220, 2008.	5. 造血器腫瘍 a. 慢性骨髄性白血病 b. 急性前骨髄球性白血病 c. 悪性リンパ腫. 一瀬百希, 鈴木宏治編, 図説	三谷絹子	内科学 (血液)
南光堂, pp473-508, 2008.	第13章 血液疾患. 寺野 彰編, シンプル内科学	三谷絹子	内科学 (血液)
処方計画法 永井書店, pp314-315, 2008.	血栓性血小板減少性紫斑病. 総合臨床 (2008増刊) 新版	新井幸宏, 三谷絹子	内科学 (血液)
医薬ジャーナル社, pp46-54, 2008.	3. 遺伝子異常 1) MDSにみられる遺伝子異常. 朝長万左男編, みんなに役立つ骨髄異形成症候群 (MDS) の基礎と臨床	三谷絹子	内科学 (血液)
Cancer Sci 99: 414-422, 2008.	Histone deacetylase inhibitors trichostatin A and valproic acid circumvent apoptosis in human leukemic cells expressing the RUNX1 chimera.	Sasaki K, Yamagata T, Mitani K	内科学 (血液)
Leukemia 22: 1871-1881, 2008.	Myelodysplastic syndrome with chromosome 5 abnormalities: A nationwide survey in Japan.	Tasaka T, Tohyama K, Kishimoto M, Ohyashiki K, Mitani K, Hotta T, Kanamaru A, Okamoto S, Karasawa M, Kimura A, Tomonaga M, Uchiyama T, Ozawa K	内科学 (血液)
Cancer Sci 99: 1878-1883, 2008	Role of the RUNX1-EV11 fusion gene in leukemogenesis.	Maki T, Yamagata T, Mitani K	内科学 (血液)
日本臨床 3, 513-519, 2008.	骨髄異形成症候群 特集 貧血	三谷絹子	内科学 (血液)
骨髄異形成症候群の基礎と臨床 40, 4-7, 2008.	ここまで解明されたMDS発症の分子機構 細胞THE CELL 特集	三谷絹子	内科学 (血液)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Current Therapy 特集骨髄増殖性疾患 26, 79-80, 2008.	骨髄増殖性疾患におけるTEL異常の関与	石前峰齊、三谷絹子	内科学 (血液)
診断と治療 96, 802-811, 2008.	造血器腫瘍の発症機序と分子標的療法	佐々木光、三谷絹子	内科学 (血液)
総合臨床 57, 314-315, 2008.	血栓性血小板減少性紫斑病	新井幸宏、三谷絹子	内科学 (血液)
成人病と生活習慣病 38, 725-732, 2008.	骨髄異形成症候群 (MDS) に対する分子標的治療薬の現状と将来特集/分子標的治療薬の基礎と臨床	佐々木光、三谷絹子	内科学 (血液)
Cancer Science 99:414-422, 2008.	Histone deacetylase inhibitors trichostatin A and valproic acid circumvent apoptosis in human leukemic cells expressing the RUNX1 chimera.	Sasaki K, Yamagata T, Mitani K	内科学 (血液)
Molecular profiling reveals distinct functional attributes of CD1d-restricted natural killer (NK) T cell subsets.	Molecular profiling reveals distinct functional attributes of CD1d-restricted natural killer (NK) T cell subsets.	Rolf J, Berntman E, Stenström M, Smith E, Mansson R, Stenstad H, Yamagata T, Agace W, Sigvardsson M, Cardell SL	内科学 (血液)
分子細胞治療7巻、第5号、p76-77、2008	RNAiを用いた5q-症候群候補遺伝子の同定	山形哲也、三谷絹子	内科学 (血液)
クリニカルスタディ Vol.29, No. 9, p51-57, 2008.	白血病の理解.	仲村祐子、三谷絹子	内科学 (血液)
先端医学社, 東京, pp84-85, 2008.	血清尿酸値と微量アルブミン尿. 荻原俊男編, 日常臨床に役立つ高血圧診療のエビデンス.	石光俊彦	内科学 (循環器)
先端医学社, 東京, pp118-119, 2008.	高血圧リスクとしての高脂血症. 荻原俊男編, 日常臨床に役立つ高血圧診療のエビデンス.	石光俊彦	内科学 (循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hypertens Res 31: 1703-1709, 2008.	Predictive significance of blood pressure values for the incidence of cardiovascular events in chronic hemodialysis patients.	Ishimitsu T, Nakano N, Sudo Y, Akashiba A, Takahashi T, Ohta S, Minami J, Matsuoka H	内科学 (循環器)
臨床透析 24: 1705-1710, 2008.	慢性血液透析患者におけるポリスチレン酸Na末とにおけるポリスチレン酸ゼリーの比較	石光俊彦, 中野信行, 須藤泰代, 古堅聡, 赤芝聖, 亀田智子, 高橋利明, 太田智, 南順一, 沼部敦司, 岡村篤, 松岡博昭	内科学 (循環器)
Medical Practice 25: 271-276, 2008.	CKD患者における心・血管の評価.	石光俊彦	内科学 (循環器)
循環器科 64: 211-216, 2008.	わが国における高血圧大規模臨床試験の現況—日本が参加した国際的試験: PROGRESS, RENAALなど.	石光俊彦	内科学 (循環器)
アニテックス 20: 3-10, 2008.	実験動物を用いた高血圧研究	石光俊彦	内科学 (循環器)
診断と治療 96 (Suppl): 257-266, 2008	急な血圧上昇	石光俊彦	内科学 (循環器)
心エコー 9: 684-692, 2008.	糸球体濾過量と心臓—なぜCKDが注目されるのか?	石光俊彦:	内科学 (循環器)
血圧 15: 707-711, 2008.	pre-hypertensionに対する薬物療法.	石光俊彦	内科学 (循環器)
循環plus 9: 7-9, 2008.	CKDと動脈硬化	石光俊彦	内科学 (循環器)
Pacing Clin Electrophysiol 31: 621-623, 2008.	Delayed pericarditis associated with an implantable cardioverter defibrillator implantation using an active-fixation atrial lead.	Kono K, Todoroki M, Karasawa T, Ito I, Tadokoro K, Shinbo G, Horinaka S, Matsuoka H, Mochizuki Y	内科学 (循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Cardiol 51: 205-209, 2008.	Right atrial abnormalities in a patient with arrhythmogenic right ventricular cardiomyopathy without ventricular tachycardia.	Takemura N, Kono K, Tadokoro K, Shinbo G, Ito I, Abe C, Matsuhashi N, Iemura T, Nishikimi T, Horinaka S, Matsuoka H	内科学 (循環器)
Angiology 2008 Nov 17. [Epub ahead of print].	Comparison of atherosclerotic indicators between cardio ankle vascular index and brachial ankle pulse wave velocity.	Horinaka S, Yabe A, Yagi H, Ishimura K, Hara H, Iemura T, Matsuoka H	内科学 (循環器)
Am J Hypertens 21: 72-77, 2008.	Effects of an ARB on endothelial progenitor cell function and cardiovascular oxidation in hypertension.	Yu Y, Fukuda N, Yao EH, Matsumoto T, Kobayashi N, Suzuki R, Tahira Y, Ueno T, Matsumoto K	内科学 (循環器)
Am J Hypertens 21: 224-230, 2008.	Cardioprotective effect of benidipine on cardiac performance and remodeling in failing rat hearts.	Ohno T, Kobayashi N, Yoshida K, Fukushima H, Matsuoka H	内科学 (循環器)
Am J Hypertens 21: 576-581, 2008.	Cardioprotective mechanism of telmisartan via PPAR-γ-eNOS pathway in Dahl salt-sensitive hypertensive rats.	Kobayashi N, Ohno T, Yoshida K, Fukushima H, Mamada Y, Nomura M, Hirata H, Machida Y, Shinoda M, Suzuki N, Matsuoka H	内科学 (循環器)
Am J Hypertens 21: 1062-1068, 2008.	Effects of the antioxidative beta-blocker celiprolol on endothelial progenitor cells in hypertensive rats.	Yao EH, Fukuda N, Matsumoto T, Katakawa M, Yamamoto C, Han Y, Ueno T, Kobayashi N, Matsumoto K	内科学 (循環器)
南江堂, 東京, pp424-427, 2008	高血圧の非薬物療法. 堀正二, 永井良三編, 循環器疾患最新の治療2008-2009.	南順一, 松岡博昭	内科学 (循環器)
メディカルビュー社, 東京, pp44-48, 2008.	PWVとAI: 関連と相関. 小澤利男編, 新しい血圧測定と脈波解析マニュアル.	南順一, 阿部麗子, 大野絵里	内科学 (循環器)
中外医学社, 東京, pp245-247, 2008.	メタボリックシンドロームと虚血性心疾患. 片山茂裕編, キーワードでわかる!メタボリックシンドローム.	南順一	内科学 (循環器)
中外医学社, 東京, pp253-256, 2008.	メタボリックシンドロームと喫煙. 片山茂裕編, キーワードでわかる!メタボリックシンドローム.	南順一	内科学 (循環器)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am J Hypertens 21: 10-13, 2008.	Pretreatment plasma renin activity levels correlate with the blood pressure response to telmisartan in essential hypertension.	inami J, Ishimitsu T, Matsuoka H	内科学 (循環器)
Am J Hypertens 21: 130-131, 2008.	Is there overlap in blood pressure response to the blockers of the renin-angiotensin system between lower and higher renin subjects?	Minami J, Ishimitsu T, Matsuoka H	内科学 (循環器)
Alcohol Clin Exp Res 32: 1937-1946, 2008.	Effects of functional polymorphisms related to catecholaminergic systems on changes in blood catecholamine and cardiovascular measures after alcohol ingestion in the Japanese population.	Nishimura FT, Kimura Y, Abe S, Fukunaga T, Minami J, Tanii H, Saijoh K	内科学 (循環器)
A systematic review. JAMA 300: 2886-2897, 2008.	Birth weight and risk of type 2 diabetes.	<small>Takawa JK, Gary SJ, Owa GS, Butler S, Cook DC, Janssen I, Barrett-Connor E, Muscarelo M, Fitzpatrick MC, Carlson K, de Saizel DA, Dyck PJ, Eriksson JK, Falster M, Fall C, Ferrara T, Gillis T, Gokhale N, Wilson J, Wynn-Kubie E, Joffe RT, Lerner DJ, Long SA, Misra J, Mittleman B, Omond C, Power C, Rich-Edwards JW, Rossouw EJ, Sacks DM, Schmidt H, Therasse P, Vanella N, Farnsworth H, Takawa JK</small>	内科学 (循環器)
Arterial Stiffness 14: 114-115, 2008.	中心血圧/AIと日内変動との関連性について教えてください。	南順一	内科学 (循環器)
血圧 16: 327-329, 2008.	ABPMを保健指導に生かすには？	南順一	内科学 (循環器)
井上雄一、内村直尚、平田幸一編, RESTLESS LEGS SYNDROME, アルタ出版, 東京, pp26, 2008	Caseにみるレストレスレッグス症候群	平田幸一	内科学 (神経)
井上雄一、内村直尚、平田幸一編, RESTLESS LEGS SYNDROME, アルタ出版, 東京, pp57-64, 2008	レストレスレッグス症候群の病態生理。	平田幸一	内科学 (神経)
Neurology 70: 82-83, 2008	Phantom arm and leg after pontine hemorrhage	Tanaka H, Arai M, Kadowaki T, Takekawa H, Kokubun N, Hirata K	内科学 (神経)
Intern Med 47: 225-229, 2008	Usefulness of the Japan Stroke Scale-Depression Scale-(JSS-D) for the diagnosis of post-stroke depression.	Kaji Y, Hirata K	内科学 (神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日医雑誌 136: 2191-2195, 2008	緊張型頭痛の病態と治療	平田幸一	内科学 (神経)
日本頭痛学会誌 35: 15-18, 2008	肩こりと緊張型頭痛.	平田幸一	内科学 (神経)
JIM 18: 854-855, 2008	Restless legs syndrome.	平田幸一	内科学 (神経)
Progress in Epileptic Disorders Volume5: Event-related Potentials in Patients with Epilepsy: from current state to future prospects. John Libbey	Methodological aspects of ERP:integration approach from temporal and spatial domain.	Tanaka H, Hirata K	内科学 (神経)
Neurology 70: 82-83, 2008	Phantom arm and leg after pontine hemorrhage.	Tanaka H, Arai M, Kadowaki T, Takekawa H, Kokubun N, Hirata K	内科学 (神経)
臨床脳波 50: 18-25, 2008	臨床生理学的手法を用いたアルツハイマー病治療の客観的薬効評価.	田中秀明, 星野雄哉, 小川知宏, 桜井邦彦, 平田幸一	内科学 (神経)
日本薬物脳波学会誌 9: 35-39, 2008	アルツハイマー病に対する塩酸ドネペジルの有効例と無効例の聴性中潜時反応による検討.	星野雄哉, 田中秀明, 小川知宏, 渡邊由佳, 穂積昭則, 平田幸一	内科学 (神経)
臨床神経生理学 36: 233-240, 2008	筋萎縮性側索硬化症の認知機能の評価 - 事象関連電位を用いた検討 - .	小川知宏, 田中秀明, 平田幸一	内科学 (神経)
Intern Med 47): 1285-1286, 2008	Giant cell arteritis associated with lesion of the internal carotid artery: assessment of response to atteroid therapy by magnetic resonance angiography.	Takekawa H, Daimon Y, Takashima R, Aiba S, Tanaka H, Hirata K	内科学 (神経)
Intern Med 47: 2101-2102, 2008	Usefulness of echo-planar T2* susceptibility-weighted imaging for reliable diagnosis of cerebral venous sinus thrombosis.	Takekawa H, Tanaka H, Ogawa T, Niijima Y, Sada T, Daimon Y, Hirata K	内科学 (神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
MB Med Reha 91(増): 69-73, 2008	認知症診断のためのツール:電気生理学的検査.	田中秀明, 星野雄哉, 平田幸一	内科学(神経)
臨床神経生理学 36: 658-666, 2008	頭皮上マッピング:応用	田中秀明	内科学(神経)
J Clin Sleep Med 15:242-247, 2008	Correlation between severity of obstructive sleep apnea and prevalence of silent cerebrovascular lesions.	Nishibayashi M, Miyamoto M, Miyamoto T, Suzuki K, Iwanami M, Hirata K	内科学(神経)
睡眠医療 2: 350-354, 2008	特発性REM睡眠行動異常症患者において術後せん妄を呈した2例	宮本智之, 岩波正興, 宮本雅之, 平田幸一	内科学(神経)
精神科 12: 155-163, 2008	睡眠障害の診断・検査・評価.	宮本智之, 平田幸一	内科学(神経)
日本臨床66(増2) 臨床睡眠学, 日本臨床社, 東京, pp133-137, 2008	多回睡眠潜時検査(MSLT), 覚醒維持検査(MWT)	宮本雅之	内科学(神経)
最新医学社, 大阪, pp103-114,2008	睡眠関連運動障害. 睡眠・覚醒障害	宮本雅之, 宮本智之	内科学(神経)
Sleep 31: 717-23, 2008	123I-MIBG cardiac scintigraphy provides clues to the underlying neurodegenerative disorder in idiopathic REM sleep behavior disorder.	Miyamoto T, Miyamoto M, Suzuki K, Nishibayashi M, Iwanami M, Hirata K	内科学(神経)
Sleep Med 10: 577-580, 2009 [Epub 2008 Aug 26]	Comparison of severity of obstructive sleep apnea and degree of accumulation of cardiac (123)I-MIBG radioactivity as a diagnostic marker for idiopathic REM sleep behavior disorder.	Miyamoto T, Miyamoto M, Suzuki K, Ikematsu A, Usui Y, Inoue Y, Hirata K	内科学(神経)
Neuropsychobiology 56: 172-179, 2008	Circadian variation of core body temperature in Parkinson disease patients with depression. A potential biological marker for depression in Parkinson disease.	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Kaji Y, Takekawa H, Hirata K	内科学(神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
J Neurol Sci 271: 47-52, 2008	Excessive daytime sleepiness and sleep episodes in Japanese patients with Parkinson's disease.	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Okuma Y, Hattori N, Kamei S, Yoshii F, Utsumi H, Iwasaki Y, Iijima M, Hirata K	内科学 (神経)
Sleep Biol Rhythms 6: 180-182, 2008	Daytime sleepiness in Parkinson's disease patient worsened by changing medication between same types of dopamine agonists.	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Nishibayashi M, Hirata K	内科学 (神経)
Intern Med 47: 983-984, 2008	Nocturnal hypersalivation caused by distigmine bromide in a patient with multiple system atrophy.	Suzuki K, Miyamoto T, Miyamoto M, Hirata K	内科学 (神経)
睡眠医療 2: 290-295, 2008	睡眠関連運動障害 (SRMD) の診断・治療・連携ガイドライン.	宮本雅之, 宮本智之, 井上雄一, 清水徹男	内科学 (神経)
睡眠医療2: 304-310, 2008	睡眠時随伴症の診断・治療・医療連携ガイドライン.	山本克康, 内村直尚, 井上雄一, 宮本雅之, 岡靖哲	内科学 (神経)
睡眠医療2: 324-329, 2008	PSG共通フォーマットガイドライン.	田ヶ谷浩邦, 宮本雅之, 内村直尚, 伊藤洋, 神林崇, 井上雄一, 宮本智之, 桑原哲郎	内科学 (神経)
Medical Practice 28: 1170-1174, 2008	睡眠時無呼吸症候群 (SAS) の合併症と診療のポイント 脳血管障害-SASの脳卒中リスク, 脳血管障害患者におけるSAS-	宮本雅之, 宮本智之	内科学 (神経)
Brain Medical 20: 257-263, 2008	レストレスレッグス (むずむず脚) 症候群	宮本雅之	内科学 (神経)
日医雑誌137: 1455-1459, 2008	睡眠関連運動障害-レストレスレッグス症候群, 周期性四肢運動障害.	宮本雅之	内科学 (神経)
日本医事新報 4415: 57-64, 2008	レム睡眠行動異常症と神経変性疾患.	宮本雅之, 宮本智之	内科学 (神経)



2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
柳澤信夫、篠原幸人、岩田誠、清水輝夫、寺本明編、Annual Review神経2008、中外医学社、東京、pp317-322, 2008	Guillain-Barré症候群における自律神経障害	小鷹昌明	内科学 (神経)
最新整形外科大系22巻、中山書店、pp167-177, 2008	1. ギラン・バレー症候群, 2. フィッシャー症候群, 3. 慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー, 4. 多巣性運動ニューロパチー.	小鷹昌明	内科学 (神経)
今日の治療指針2008年度版、医学書院 pp686-687, 2008	慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチー (CIDP).	小鷹昌明	内科学 (神経)
神経眼科 すぐに役立つ眼科診療の知識、金原出版、pp416-422, 2008	ギラン・バレー症候群、フィッシャー症候群.	小鷹昌明	内科学 (神経)
神経治療 25: 443-448, 2008	Ciclosporin療法中に悪性リンパ腫を発症した慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーの1例.	小鷹昌明, 平田幸一	内科学 (神経)
医学のあゆみ 226: 165-169, 2008	ギラン・バレー症候群におけるあらたな治療の試み	小鷹昌明	内科学 (神経)
神経内科 69: 266-273, 2008	慢性炎症性脱髄性多発ニューロパチーの実態 - 全国CIDPサポートグループによるアンケート調査 - .	小鷹昌明, 青木聡, 釘宮明美, 塚口-藤澤裕美, 辻邦夫	内科学 (神経)
内科 101: 572-574, 2008	症例から学ぶ、診断ピットフォール、性状の変化する頭痛はやはり器質的疾患が隠れている.	小鷹昌明, 星野雄哉	内科学 (神経)
神経内科 69: 5-12, 2008	Bickerstaff脳幹脳炎 - Fisher症候群との連続性を中心に - .	小鷹昌明	内科学 (神経)
Neurology 70: 82-83, 2008	Phantom arm and leg after pontine hemorrhage.	Tanaka H, Arai M, Kadowaki T, Takekawa H, Kokubun N, Hirata K	内科学 (神経)

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床脳波 50: 221-228, 2008	ギラン・バレー症候群と電気生理 - 軸索障害と脱髄, AIDPとAMAN	国分則人, 西林百佳, 新島悠子, 高嶋良太郎, 平田幸一	内科学 (神経)
田中耕太郎、高嶋修太郎編, 必携 脳卒中ハンドブック, 診断と治療社, 東京, pp155-158, 2008	脳卒中患者の診察の実際 A問診のポイント	竹川英宏, 平田幸一, 今井明	内科学 (神経)
田中耕太郎、高嶋修太郎編, 必携 脳卒中ハンドブック, 診断と治療社, 東京, pp159-163, 2008	脳卒中患者の診察の実際 B内科的診察法.	竹川英宏, 平田幸一, 今井明	内科学 (神経)
神経内科 68: 326-331, 2008	異常な呼吸パターン.	竹川英宏, 岩波正興, 平田幸一	内科学 (神経)
ICUとCCU 32: 357-361, 2008	脳卒中診療ネットワーク(1)栃木県	竹川英宏, 新島悠子, 小川知宏, 大門康寿, 江幡敦子, 相場彩子, 岩波正興, 平田幸一	内科学 (神経)
救急・集中治療 20: 1088-1093, 2008	PSLS.	竹川英宏, 新島悠子, 平田幸一	内科学 (神経)
脳21 11: 461-464, 2008	脳梗塞による生体リズム障害と慢性期における睡眠障害	竹川英宏, 大門康寿, 江幡敦子, 平田幸一	内科学 (神経)
神経治療 25: 565-571, 2008	脳梗塞の後遺症と合併症に対する対策	竹川英宏, 大門康寿, 平田幸一	内科学 (神経)
高久史磨監, 堀正二, 菅野健太郎, 門脇孝, 乾賢一, 林昌洋編, 治療薬ハンドブック2008, じほう, 東京, pp149-154, 2008	片頭痛治療薬.	平田幸一, 斎須章浩, 辰元宗人	内科学 (神経)
神経内科 68: 287-290, 2008	女子大学生における片頭痛スクリーナーを用いた調査と受診指導	斎須章浩, 辰元宗人, 星山栄成, 岩波久威, 平田幸一	内科学 (神経)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Clin Neurosci 26: 549-551, 2008	Hypersensitivity syndrome.	辰元宗人, 平田幸一	内科学 (神経)
門脇孝編, アディポネクチンとその受容体 - 抗生活習慣病ホルモンの全貌 フジメデイカル出版 129-134, 2008.	アディポネクチンと血管内皮機能.	服部良之, 笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
山口徹, 北原光男, 福井次矢総編集, 今日の治療指針 医学書院, 573-574, 2008.	慢性甲状腺炎 (橋本病) .	笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
寺野 彰総編集, シンプル内科学 南江堂 401-443, 2008.	第11章 内分泌・代謝疾患	笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
high molecular weight adiponectin. Diab Vasc Dis Res, 5:123-127, 2008.	Adiponectin induces NF-kappaB activation that leads to suppression of cytokine-induced NF-kappaB activation in vascular endothelial cells: globular adiponectin vs.	Tomizawa A, Hattori Y, Kasai K, Nakano Y	内科学 (内分泌代謝)
FEBS Lett, 582:1719-1724, 2008.	High molecular weight adiponectin activates AMPK and suppresses cytokine-induced NF-kappaB activation in vascular endothelial cells.	Hattori Y, Nakano Y, Hattori S, Tomizawa A, Inukai K, Kasai K	内科学 (内分泌代謝)
The Endocrinologist 18: 65-67, 2008.	A case of pituitary apoplexy induced by bromocriptine test with a TSH- and GH-producing pituitary adenoma.	Monden T, Satoh T, Hashizyme H, Hashimoto K, Hashida T, Sato M, Oyama T, Yamada M, Kasai K	内科学 (内分泌代謝)
日本臨床66増刊 (新時代の糖尿病1) :581-584, 2008.	インスリン抵抗性・耐糖能異常を伴う遺伝性症候群 筋強直性ジストロフィー.	伴場信之, 服部良之, 笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
ホルモンと臨床 56:743-750, 2008.	薬剤誘発性の甲状腺中毒症・甲状腺機能低下症	笠井貴久男, 西川光重, 同マニュアル作成委員会	内科学 (内分泌代謝)
Circ J 72: 218-225, 2008.	Importance of Lipid Levels in Elderly Diabetic Individuals.	Hayashi T, Kawashima S, Itoh K, Yamada N, Sone H, Watanabe H, Hattori Y, Ohrui T, Yoshizumi M, Yokote K, Kubota K, Nonura H, Umegaki H, Iguchi A: on behalf of Japan CDM group.	内科学 (内分泌代謝)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Diabetes Res Clin Pract 79:e6-7, 2008.	Symptoms of gastroesophageal reflux in diabetes patients.	Kase H, Hattori Y, Sato N, Banba N, Kasai K	内科学 (内分泌代謝)
Life Sci 82: 884-891, 2008.	PPAR $\alpha$ activators upregulate eNOS activity and inhibit cytokine-induced NF- $\kappa$ B activation through AMP-activated protein kinase activation.	Okayasu T, Tomizawa A, Suzuki K, Manaka K, Hattori Y	内科学 (内分泌代謝)
Am J Hypertens 21: 451-457, 2008.	Cilostazol activates AMP-activated protein kinase and restores endothelial function in diabetes.	Suzuki K, Uchida K, Nakanishi N, Hattori Y	内科学 (内分泌代謝)
糖尿病 51, 15-18, 2008	キノロン耐性GSB ( <i>Sterptococcus agalactiae</i> )による腸腰筋膿瘍を呈した2型糖尿病の1例.	鈴木國弘、宮下寧、伴場信之、門傳剛、服部良之、笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
DIABETES JOURNAL: 糖尿病と代謝 Vol. 36, No. 2, 56-59, 2008	ピオグリタゾンが奏効したインスリン受容体異常症姉妹例-血中アディポネクチンの検討.	平間記子、服部良之、鈴木國弘、城島輝雄、岩田千種、服部幸子、有坂治、笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
Endocr J 55: 529-533, 2008	Herbal medicine, Hachimi-jio-gan, and its component cinnamomi cortex activate the peroxisome proliferators-activated receptor alpha in renal cells.	Monden T, Hosoya T, Nakajima Y, Kishi M, Satoh T, Hashimoto K, Kasai K, Yamada M, Mori M	内科学 (内分泌代謝)
Endocr J 55: 657-665, 2008.	A novel splice variant of the nuclear coactivator p120 functions strongly for androgen receptor: characteristic expression in prostate disease.	Hosoya T, Monden T, Fukabori Y, Hashimoto K, Satoh T, Kasai K, Yamada M, Mori M	内科学 (内分泌代謝)
Therapeutic Research 29:559-564, 2008.	オルメサルタンによる高血圧合併糖尿病患者の脂質代謝への影響	松村美穂子、門傳剛、加瀬浩之、鈴木國弘、川越宣明、佐藤稔、伴場信之、笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
Progress in Medicine 28:1547-1552, 2008.	骨粗鬆症合併糖尿病患者に対する塩酸ラロキシフェン長期投与による脂質代謝・糖代謝への影響.	松村美穂子、中谷祐己、清水裕晶、門傳剛、笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
新薬と臨床 57: 1553-1558, 2008.	バルサルタン160mgの2型糖尿病患者に対する腎保護効果.	門傳剛、松村美穂子、田口裕久、清水裕晶、中谷祐己、百目木希実、笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Endocrinologist 18: 65-67, 2008.	A case of pituitary apoplexy induced by a bromocriptine test with a TSH- and GH-producing pituitary adenoma.	Monden T, Satoh T, Hashizume H, Hashimoto K, Hashida T, Sato M, Oyama T, Yamada M, Kasai K, Mori M	内科学 (内分泌代謝)
内科102: 185-188, 2008.	当院におけるコントロール不良1型糖尿病合併妊娠にCSIIを導入した症例の検討	鈴木國弘、黒田久元、門傳剛、服部良之、笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
Progress in Medicine 28:1841-1842, 2008.	芍薬甘草湯が2型糖尿病腎症透析患者の筋痙攣に奏功した1例	松村美穂子、池田志織、宮下寧、中谷祐己、門傳剛、笠井貴久男	内科学 (内分泌代謝)
寺野彰他 編, シンプル内科学 (分担) 南光堂, 448-450, 2008.	免疫反応と組織障害.	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
永井厚志他 編, COPDのすべて (分担) 文光堂, 278-283, 2008	気管支喘息	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
薬物吸入療法研究会 編, 21世紀の吸入療法 (分担) 248-255, 2008	アドエア (フルカチゾン/サルメテロール配合剤)	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
貫和敏博他 編, 新臨床内科学 第9版 (分担) 医学書院, 1497-1499, 2008	花粉症	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
貫和敏博他 編, 新臨床内科学 第9版 (分担) 医学書院, 1499-1501, 2008	鼻アレルギー、アレルギー性鼻炎	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
貫和敏博他 編, 新臨床内科学 第9版 (分担) 医学書院, 1504, 2008.	アトピー性皮膚炎	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
重篤副作用疾患別対応マニュアル2 第②集 (分担) (財) 日本医薬情報センター(JAPIC), 5-30, 2008	アナフィラキシー	福田健, 海老澤元宏, 永田真, 平田博国	内科学 (呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
WAO Journal 1 : 115-122, 2008.	Role of the transcriptional repressor BCL6 in allergic response and inflammation.	Arima M, Fukuda T, Tokuhisa T	内科学 (呼吸器・アレルギー)
J Immunol 180 : 6262-6269, 2008.	Identification of pendrin as a common mediator for mucus production in bronchial asthma and chronic obstructive pulmonary disease.	Nakao I, Kanaji S, Ohta S, Matsushita H, Arima K, Yuyama N, Yamaya M, Nakayama K, Kubo H, Watanabe M.	内科学 (呼吸器・アレルギー)
Respirology 13 : 788-798, 2008.	Effects of Th2 pulmonary inflammation in mice with bleomycin-induced pulmonary fibrosis.	Hirata H, Arima M, Fukushima Y, Ishii Y, Tokuhisa T, Fukuda T	内科学 (呼吸器・アレルギー)
アレルギー 57 : 1275-1283, 2008.	気管支喘息の早期診断基準の提言 厚生労働省 免疫アレルギー疾患予防、治療研究事業 気管支喘息の慢性化・難治化の予防を目指す、早期介入療法のための早期診断法の確立に関する研究班	杉山公美弥, 相良博典, 足立満, 美濃口健治, 田中明彦, 井上洋西, 山内広平, 小林仁, 秋山一男, 榎方充, 斉藤純平, 佐藤俊, 三嶋理晃, 新実彰男, 松本久子, 大田健, 足立哲也, 長瀬洋之, 中島裕史, 加々美新一郎, 岩本逸夫, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
喘息 21 : 77-81, 2008.	咳感受性が亢進した喘息患者に対するフマル酸エメダスチンの効果-喘息における咳嗽発生機序解明へのアプローチ: 麦門冬湯との効果の比較-	渡邊直人, 成剛, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
アレルギーの臨床 28 : 62-69, 2008	喘息診断における気道可逆性試験の感度を高める方法- Salbutamol MDI反復吸入法の検討とその意義-	渡邊直人, 牧野莊平, 木原令夫, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
アレルギー 57 : 1284-1292, 2008.	喘息患者におけるピークフローの自己最良値の求め方の検討- ピークフローの日常時の最高値と高用量の吸入ステロイド投与に Salbutamol MDI反復吸入を用いて求めた最高値との比較-	渡邊直人, 牧野莊平, 木原令夫, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
日本職業・環境アレルギー学会雑誌 15 : 30-36, 2008.	食餌依存アスピリン誘発アナフィラキシーと思われる1例.	渡邊直人, 牧野莊平, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
アレルギーの臨床 28 : 95-96, 2008.	食餌依存アスピリン誘発アナフィラキシーと思われる1例	渡邊直人, 牧野莊平, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
Current Molecular Medicine 8 : 365-375, 2008.	Prostaglandin D <sub>2</sub> receptors DP and CRTH2 in the pathogenesis of asthma.	Arima M, Fukuda T	内科学 (呼吸器・アレルギー)

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
分子呼吸器病 12 : 8-13, 2008.	喘息治療における $\beta$ 2刺激薬の分子機構	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
Medicament News 1930 : 17-19, 2008	喘息〜病態に応じた効果的治療〜	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
日本内科学会雑誌 97 : 513-518, 2008	慢性炎症から見た喘息治療の考え方	福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
アレルギー 57 : 491-498, 2008	アレルゲン免疫療法の意義と施行法 : ハチ・アレルギー	平田博国, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
International Review of Asthma 10 : 46-54, 2008.	気管支喘息におけるCysLTs遺伝子の関与 (アスピリン/NSAIDs不耐性喘息を中心に) .	平田博国, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
喘息 21 : 39-45, 2008	気道リモデリングにおけるT細胞の役割	平田博国, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
南山堂. pp249-256. 2008.	4呼吸器疾患 呼吸器疾患アプローチのための解剖生理. 病気と薬パーフェクトBOOK (池田宇一, 他編集)	石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)
気管支肺胞洗浄「BAL」法の手引き (日本呼吸器学会びまん性肺疾患学術部会厚生労働省難治性疾患克服研究事業びまん性肺疾患調査研究班編集) . pp90-93, 2008.	C. 気道性疾患 1. 気管支喘息.	石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)
呼吸器common diseaseの診療 DOPDのすべて (永井厚志, 一ノ瀬正和編集) , pp169-172, 2007.	2 呼吸機能の改善.	石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)
The Lung 16 : pp371-375 ; 2008.	ARDSを治療する④ープロテアーゼインヒビターー.	石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
呼吸 27 : pp437-438 ; 2008.	研究の周辺から 最後に取り残された主役—樹状細胞—	石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)
J Clin Rheumatol.14:361-362. 2008.	Systemic lupus erythematosus associated with facial edema, overproduction of interleukin-5, and eosinophilia.	Anzai M, Maezawai R, Ohara T, Kodama K, Fukuda T, Kurasawa K	内科学 (呼吸器・アレルギー)
関東リウマチ41:85-92, 2008.	血栓性血小板減少性紫斑病を合併したWegener肉芽腫症の一例	遠山香苗, 倉沢和宏, 梅津貴文, 林ゆめ子, 新井聡子, 崎尾由浩, 大原徹也, 前澤玲華, 花岡亮輔, 熊野浩太郎, 福田健	内科学 (呼吸器・アレルギー)
内科101: 704-708, 2008	抗凝固薬、抗血小板薬、エンドセリン受容体拮抗薬の選び方と使い方	倉沢和宏	内科学 (呼吸器・アレルギー)
リウマチ科39: 317-325, 2008.	強皮症の病態とそのマネジメント:間質性肺病変.	倉沢和宏:	内科学 (呼吸器・アレルギー)
リウマチ科40: 465-473, 2008.	ステロイド誘発性精神病 SLE患者ステロイド誘発性精神症状はCNSループスか	倉沢和宏	内科学 (呼吸器・アレルギー)
薬局 2008年3月増刊号 病氣と薬パーフェクトBOOK 2008, 池田宇一, 大越教夫, 横田千津子 監修・編集, 南山堂 :pp244-248, 2008	呼吸器疾患アプローチのための解剖生理	武政聡浩, 石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)
医歯薬出版株式会社225: 1149-1154. 2008	医学のあゆみ 咳喘息の診断と治療. 慢性咳嗽の診断と治療 UPDATE.	武政聡浩, 石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)
診断と治療社 pp107-113, 2008	補助的治療法. 初学者に必要なARDS診療ノウハウ, 石坂彰敏 編,	武政聡浩, 石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)
KEY WORD 感染症 第2版, 山口恵三, 戸塚恭一 編, 先端医学社pp46-47, 2008	急性呼吸促迫症候群.	武政聡浩, 石井芳樹	内科学 (呼吸器・アレルギー)



2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
がん緩和ケア 必携ベッド サイドで役立つ癌緩和ケア マニュアル (編 東原正 明) 振興医学出版社、 2008.	疼痛以外の症状の緩和ケアの実際 精神的ケア 不安/不眠/抑うつ.	森田幸代、下田和 孝	精神神経医学
薬物有害反応.星和書店 第 2版 pp100-p110, 2008	臨床精神薬理学テキストブック (日本臨床精神神経薬理学会編)	渡邊 崇、下田和 孝	精神神経医学
臨床精神薬理 11:1337- 1342, 2008.	多剤併用からolanzapineに変更後、clonazepamの追加で遅発性ジ ストニアが改善した1例.	渡邊 崇、大曾根 彰、秋山一文、下 田和孝	精神神経医学
精神科治療学 23:1013- 1017, 2008.	パニック発作を呈した甲状腺機能低下症の1例.	渡邊 崇、上田幹 人、鮎瀬 武、石 黒 慎、佐伯吉 規、下田和孝	精神神経医学
臨床精神薬理 11:2311- 2316, 2008.	Quetiapineへの置換とfluvoxamineの減量により遅発性ジストニ アが改善した1例.	渡邊 崇、大曾根 彰、秋山一文、下 田和孝	精神神経医学
精神神経学雑誌 110:633- 638, 2008	不安障害のオーダーメイド薬物療法の可能性 パニック障害を中 心に	渡邊 崇、上田幹 人、佐伯吉規、下 田和孝	精神神経医学
Progress in Neuro- Psychopharmacology & Biological Psychiatry 32: 1944-1951, 2008.	Functional near-infrared spectroscopy reveals altered hemispheric laterality in relation to schizotypy during verbal fluency task.	Hori H, Ozeki Y, Terada S, Kunugi H	精神神経医学
The Open Psychiatry Journal 2: 1-4, 2008	A case of schizophrenia with chromosomal microdeletion of 17p11.2 containing a myelin-related gene PMP22.	Ozeki Y, Mizuguchi T, Hirabayashi N, Ogawa M, Ohmura N, Moriuchi M, Haradae N, Matsumoto N.	精神神経医学
栃木精神医学 28:3- 10, 2008	成人の周期性嘔吐症の一例	室井宏文, 佐伯吉 規, 大曾根彰, 下 田和孝	精神神経医学
総合臨床56: 2758-2760, 2008	新しい抗うつ薬の薬理学.	萩野谷真人, 佐伯 吉規, 下田和孝	精神神経医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biol Psychiatry63:997-1000, 2008.	Modulation of D-serine levels in brains of mice lacking PICK1.	Hikida T, Mustafa AK, Maeda K, Fujii K, Barrow RK, Saleh M, Huganir RL, Snyder SH, Hashimoto K.	精神神経医学
臨床薬理 39 : 18-24, 2008	特集高齢者と薬物療法（臨床薬理的観点から）高齢者の薬物療法の問題点—精神科領域疾患.	藤井久彌子、下田和孝	精神神経医学
日本皮膚科学会雑誌118: 1893-1923, 2008	日本皮膚科学会尋常性ざ瘡治療ガイドライン策定委員会	林伸和, 赤松浩彦, 岩月啓氏, 黒川一郎, 幸野健, 谷岡未樹, 日高良子, 古川福実, 山崎修, 山崎雙次, 山本有紀, 宮地良	皮膚科学
皮膚病診療 30: 1265-1268, 2008	Werner症候群	嶋岡弥生, 簇持淳, 山崎雙次, 鹿島隆一, 戸田正夫	皮膚科学
瀧川雅浩他編, 皮膚疾患最新の治療2009-2010, 南江堂, pp, 80, 2008.	限局性強皮症.	簇持淳	皮膚科学
J Dermatol 35: 598-600, 2008	Successful treatment of granulomatous cheilitis with roxithromycin.	Ishiguro E, Hatamochi A, Hamasaki Y, Ishikawa S, Yamazaki S	皮膚科学
J Dermatol. 35: 306-307, 2008	Systemic lupus erythematosus with lichen planus-like eruptions associated with pericarditis.	Kobayashi T, Hatamochi A, Kamada N, Matsue H, Shinkai H	皮膚科学
J Dermatol 35:151-153, 2008	Discoid lupus erythematosus exacerbated by contact dermatitis caused by use of squaric acid dibutylester for topical immunotherapy in a patientwith alopecia areata.	Shimaoka Y, Hatamochi A, Hamasaki Y, Suzuki H, Ikeda H, Yamazaki S	皮膚科学
Br J Dermatol 158: 864-867, 2008 .	Novel compound heterozygous nonsense and missens ABCA12 mutations lead to nonbullous congenital ichthyosiform erythroderma.	Akiyama M, Sakai K, Hatamochi A, Yamazaki S, McMillan JR, Shimizu H	皮膚科学
J Dermatol Sci 49: 195-205, 2008	EM703, the new derivative of erythromycin, inhibits transcription of type I collagen in normal and scleroderma fibroblasts.	Ikeda H, Sunazuka T, Suzuki H, Hamasaki Y, Yamazaki S, Omura S, Hatamochi A	皮膚科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
皮膚科の臨床, 50, 895-898, 2008.	成人型肥満細胞症の2例	五月女聡浩, 鈴木弘美, 彭志中, 濱崎洋一郎, 旗持淳, 山崎雙次, 柳堀浩克, 金子史男	皮膚科学
皮膚科の臨床, 50: 715-718, 2008.	小児帯状疱疹の2例	古谷野さとみ, 石川里子, 木根淵明, 濱崎洋一郎, 旗持淳, 山崎雙次	皮膚科学
臨床皮膚科, 62: 484-486, 2008	中枢神経症状を欠き皮膚症状から診断した結節性硬化症の1例	蘇原しのぶ, 旗持淳, 宮本由香里, 濱崎洋一郎, 山崎雙次	皮膚科学
臨床皮膚科, 62: 414-417, 2008	自家接種により多発したスポロトリコーシスの2例	林周次郎, 馬場安紀子, 塚原掌子, 小関邦彦, 北村洋平, 鈴木弘美, 池田秀幸, 濱崎洋一郎, 旗持淳, 小池宰子, 白井恵太	皮膚科学
臨床皮膚科, 62: 282-284, 2008.	レボフロキサシン(クラビット)により麻痺性イレウスと薬疹を生じた1例:	鶴見純也, 伊藤幸恵, 小田佐智子, 沖田博, 濱崎洋一郎, 旗持淳, 山崎雙次	皮膚科学
臨床皮膚科, 62: 270-272, 2008.	右内頰に有棘細胞癌を伴った色素性乾皮症D群の1例	塚原掌子, 旗持淳, 濱崎洋一郎, 山崎雙次, 森脇真一	皮膚科学
皮膚病診療 30: 1214-1224, 2008.	Ehlers-Danlos 症候群-最近の進歩.	旗持淳	皮膚科学
鈴木啓之・神崎保編, 106, 講談社, 東京, 2008.	持久性隆起性紅斑, 皮膚科診療カラーアトラス体系第2巻	濱崎洋一郎	皮膚科学
J Investig Allergol Clin Immunol 18:245-252, 2008.	Emedastine Difumarate Inhibits histamine-induced collagen synthesis in dermal fibroblasts.	Murota H, Bae S, Hamasaki Y, Maruyama R, Katayama I	皮膚科学
臨床皮膚 62: 228-230, 2008.	胃切除とアルコール多飲が誘因と考えられたペラグラの1例.	小川恩, 濱崎洋一郎, 古谷野さとみ, 旗持淳, 山崎雙次:	皮膚科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本皮膚科学会雑誌 118: 1749, 2008.	腹部に生じた尖圭コンジローマの1例.	小林万利子, 濱直人, 濱崎洋一郎, 篠持淳, 山崎雙次, 柳田通	皮膚科学
日本皮膚科学会雑誌 118: 2002, 2008.	増殖性天疱瘡の1例.	小池祐美, 岩川俊輝, 古谷野さとみ, 濱直人, 鈴木弘美, 鶴見純也, 濱崎洋一郎, 篠持淳, 山崎雙次	皮膚科学
日本皮膚科学会雑誌 118: 2261, 2008	医源性副神経損傷の1例	濱直人, 濱崎洋一郎, 篠持淳, 山崎雙次	皮膚科学
秀潤社, pp200-219, 2008.	前立腺. 山下康行編著, 知っておきたい泌尿器のCT・MRI.	楯靖	放射線医学
メディカル・サイエンス・ インター ナショナル, pp323-364, 2008.	男性泌尿生殖器. 荒木力編, 腹部のMRI (第2版)	楯靖	放射線医学
J Minim Invasive Gynecol. 15:571-579, 2008.	Early results of magnetic resonance-guided focused ultrasound surgery of adenomyosis: analysis of 20 cases.	Fukunishi H, Funaki K, Sawada K, Yamaguchi K, Maeda T, Kaji Y	放射線医学
Ann Nucl Med. 22:505- 512, 2008	Standardized uptake values of uterine leiomyoma with 18F- FDG PET/CT: variation with age, size, degeneration, and contrast enhancement on MRI.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Kaji Y, Sugimura K.	放射線医学
J Nucl Med Mol Imaging. 35:1439-1448, 2008.	Performance of integrated FDG-PET/contrast-enhanced CT in the diagnosis of recurrent ovarian cancer: comparison with integrated FDG-PET/non-contrast-enhanced CT and enhanced CT.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Domeki Y, Kaji Y, Fukasawa I, Inaba N, Suganuma N, Sugimura K	放射線医学
Eur Radiol. 18:2040- 2047, 2008.	Performance of FDG-PET/CT for diagnosis of recurrent uterine cervical cancer	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Domeki Y, Kaji Y, Sugimura K	放射線医学
日本医師会雑誌, 137 : 991-996, 2008.	前立腺癌をはじめとする泌尿器疾患	楯靖	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Am Rev Respir Crit Care Med 177:433-439:2008	Computed tomography findings in pathological usual interstitial pneumonia.	Sumikawa H, Johkoh T, Colby TV, Ichikado K, Suga M, Taniguchi H, Kondoh Y, Ogura T, Arakawa H, Fujimoto K et al	放射線医学
Am. J. Respir. Crit. Care Med. 177: 1348-1357.	Interstitial lung disease in Japanese patients with lung Cancer: a cohort and nested case-control study.	Kudoh S, Kato, S, Japan Thoracic Radiology Group et al	放射線医学
Am. J. Roentgenol 191:1040-1045, 2008	Progression from near-normal to end-stage lungs in chronic interstitial pneumonia related to silica exposure: long-term CT observations.	Arakawa H, Fujimoto K, Honma K, et al:	放射線医学
Radiation Medicine, 26:115-119, 2008.	Computed tomographic features of the bony canal of the cochlear nerve in pediatric patients with unilateral sensorineural hearing loss.	Tatsuo Kono	放射線医学
日本未熟児新生児学会雑誌 20:156, 2008	ガストログラフィン胃内投与の危険性.	河野 達夫	放射線医学
Pediatric Radiology, 38: 1105-1108, 2008.	Tigroid pattern of the white matter: a previously unrecognized MR finding in lissencephaly with cerebellar hypoplasia.	Tatsuo Kono, Nobuko Moriyama, Ryuta Tanaka, Nobuaki Iwasaki, Jun-ichi Arai	放射線医学
ネオネイタル・ケア 21:88-95, 2008.	画像による新生児症例カンファランス 脳室周囲白質軟化症あるいはwhite matter injury of prematurity.	河野 達夫、奥 起久子:	放射線医学
ネオネイタル・ケア 21:62-71, 2008.	画像による新生児症例カンファランス 栄養チューブの右気管支内誤挿入.	河野 達夫、奥 起久子	放射線医学
ネオネイタル・ケア 21:82-88, 2008.	画像による新生児症例カンファランス 経皮的中心静脈カテーテルの上行腰静脈への迷入	河野 達夫、奥 起久子	放射線医学
ネオネイタル・ケア 21:74-82, 2008	画像による新生児症例カンファランス 臍静脈カテーテルの門脈右枝への迷入.	河野 達夫、奥 起久子	放射線医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ネオネイタル・ケア 21:80-85, 2008.	画像による新生児症例カンファランス 正期産児の低酸素性虚血性脳損傷.	河野 達夫、奥 起久子	放射線医学
ネオネイタル・ケア 21:72-78, 2008.	画像による新生児症例カンファランス Leaky Lung Syndrome.	河野 達夫、奥 起久子	放射線医学
ネオネイタル・ケア 21:70-76, 2008.	画像による新生児症例カンファランス 古典的滑脳症.	河野 達夫、奥 起久子	放射線医学
小児科診療 Vol.71 Suppl, 239-248, 2008	目で見る最新の超音波診断 頸部・甲状腺	河野 達夫	放射線医学
小児科臨床 Vol. 61, 677-680, 2008	ここまでわかる『小児の単純X線写真とエコー画像』 ヒルシュスプルング病一どのような時に本疾患を疑うかー.	河野 達夫	放射線医学
インナービジョン 23:114-115, 2008	小児における三次元画像の有用性と課題	河野 達夫	放射線医学
Thyroid 10: 561-566, 2008.	A novel homozygous missense mutation of the dual oxidase 2 (DUOX2) gene in an adult patient with large goiter.	Ohye H, Fukata S, Hishinuma A, Kudo T, Nishihara E, Ito M, Kubota S, Amino N, Ieiri T, Kuma K.	臨床検査医学
日本内科学会雑誌 97:2983-2990, 2008.	特集 臨床検査：現状と展望 トピックス II. 各論ー実地医家に必要な新しい検査と重要な検査項目ー 6. 内分泌・代謝疾患.	家入蒼生夫、菱沼昭、竹越一博	臨床検査医学
Thyroid 10: 561-566, 2008.	A novel homozygous missense mutation of the dual oxidase 2 (DUOX2) gene in an adult patient with large goiter.	Ohye H, Fukata S, Hishinuma A, Kudo T, Nishihara E, Ito M, Kubota S, Amino N, Ieiri T, Kuma K.	臨床検査医学
日本内分泌学会雑誌 84(Suppl):38-41, 2008	家系内に集積したサイログロブリン(Tg)遺伝子異常症	深田修司、菱沼昭、窪田純久、隈寛二、網野信行、宮内 昭	臨床検査医学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床検査 増刊号 ホルモンの病態異常と臨床検査 52:1183, 2008.	サイログロブリン遺伝子異常と甲状腺腫.	菱沼 昭、家入蒼生夫	臨床検査医学
新 臨床検査項目辞典, 櫻林郁之介, 熊坂一成編, 医歯薬出版, 東京, pp 669-670, 2008.	結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン $\gamma$	吉田 敦	臨床検査医学
新 臨床検査項目辞典, 櫻林郁之介, 熊坂一成編, 医歯薬出版, 東京, pp 669-670, 2008	結核菌特異蛋白刺激性遊離インターフェロン $\gamma$	吉田 敦	臨床検査医学
日本臨床検査自動化学会会誌2008 ; 33 : 314-317	常在菌の種類と役割	吉田 敦	臨床検査医学
臨床病理56 : 1034-1042, 2008.	感染症検査—最近の話題 サイトメガロウイルスの検査法	吉田 敦	臨床検査医学
岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp21-25, 2008	子どもの肥満と年齢区分	有阪 治	小児科学
岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp 26-34, 2008	子どもの肥満の予防と治療, 予後.	有阪 治	小児科学
岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp 114-119, 2008	高脂血症と肥満	有阪 治	小児科学
岡田知雄編, よくわかる子どもの肥満, 永井書店, pp160-163, 2008	Adiposity rebound, food intake, and early growth.	有阪 治	小児科学
佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp 2-3, 2008	発育期の区分	有阪 治	小児科学

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp4-5, 2008	成長に影響する因子.	有阪 治	小児科学
佐地勉, 有阪 治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp6-7, 2008	成長の評価	有阪 治	小児科学
佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp54-57, 2008	輸液, 電解質・酸塩基平衡, 輸液.	有阪 治	小児科学
佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, p84-85, 2008	脱水症	有阪 治	小児科学
佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp292-294, 2008	下垂体後葉疾患.	有阪 治	小児科学
佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編, 講義録 小児科学, メジカルビュー社, pp770-771, 2008	腸重積症	有阪 治	小児科学
大関武彦, 藤枝憲二編, 診断と治療社, 41-48, 2008	血清脂質異常とその評価, 小児のメタボリックシンドローム,	有阪 治	小児科学
大関武彦, 近藤直実編, 小児科学, 第3版, 医学書院, pp1495-1497, 2008	下垂体機能亢進症	有阪 治	小児科学
大関武彦, 近藤直実編, 小児科学, 第3版, 編医学書院, pp1497-1502, 2008	思春期の発来とその異常	有阪 治	小児科学
山口徹, 北原光男, 福井次矢編, 今日の治療指針 2009, 医学書院, pp. 1037-1038, 2008	思春期早発症.	有阪 治	小児科学



2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
尿崩症.小児内科 40:1755-1761, 2008	小児内分泌疾患の診断の手引き. いかに診断して治療するか.	有阪 治	小児科学
小児内科40 : 690-695, 2008	小児疾患診療のための病態生理 I, 第4版, 中枢性尿崩症.	有阪 治	小児科学
栃木県小児科医会会報誌 14:2-3, 2008	食育の観点から考える生活習慣病	有阪 治	小児科学
日小血会誌 22:223-238, 2008	Congenital dyserythropoietic anemiaの全国調査	多賀崇、伊藤剛、浅見恵子、井上雅美、吉益哲、菊池陽、杉田憲一、鈴木信弘、真部淳、岩崎史記、小坂嘉之、右田昌宏、小	小児科学
Pediatr Transplantation 2008.	Chronic active Epstein Barr virus infection with mosquito allergy successfully treated with reduced intensity unrelated allogeneic bone marrow transplantation in a boy.	Matsunaga T, Kurosawa H, Okuya M, Nakajima D, Hagiwara S, Sato Y, Fukushima K, Sugita K.	小児科学
小児科臨床 61:1159-1162, 2008.	労作性熱中症に伴って肝障害を認めた3例.	西田光宏、萩沢進、平尾準一、杉田憲一、有阪治	小児科学
J New Rem Clin 57:99-101, 2008.	No effect of alendronate on bone mineral density and vertebral fracture in a nephritic boy treated with high-dose prednisone.	.Kano K, Nishikura K, Ohwada Y, Arisaka O:	小児科学
Tohoku Journal of Experimental Medicine 216:25-34, 2008.	Oncogenic ras regulates survivin expression via mitogen-activated protein kinase and phosphatidylinositol-3 kinase in mouse interleukin-3 dependent hematopoietic Baf-3 cells.	Shinjyo T, Kurosawa H, Miyagi J, Ohama K, Masuda M, Matsui H, Inaba T, Furukawa Y.	小児科学
Pediatric Transplantation 12:862-867, 2008.	A conditioning regimen of busulfan, fludarabine, and melphalan for allogeneic stem cell transplantation in children with juvenile myelomonocytic leukemia.	Yabe M, Sako M, Yabe H, Osugi Y, Kurosawa H, Nara T, Tokuyama M, Adachi S, Kobayashi C, Yanagimachi M, Ohtsuka Y, Nakazawa Y, Ogawa C, Atsushi M, Kojima S and Nakahata T for a Japanese Childhood MDS Study Group.	小児科学
日本小児血液学会雑誌 22:14-20, 2008.	乳児期発症の急性骨髄性白血病の治療検討—東京小児がん研究グループ (TCCSG) 13次および14次研究より	富澤大輔、木下明俊、田淵健、井田孔明、太田節雄、清田知賀子、小池和俊、高橋浩之、黒澤秀光、気賀沢寿人、別所文雄、月本一郎、花田良二、土田昌弘。	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
佐地勉他編, 講義録小児科学, メジカルビュー社, pp425-426, 2008	肺の形成異常(肺無形成、肺低形成)。	吉原重美, 小野三佳	小児科学
佐地勉他編, 講義録小児科学, メジカルビュー社, pp427-429, 2008.	胸膜縦隔疾患(気胸、縦隔気腫)	吉原重美, 阿部利夫	小児科学
新領域別症候群シリーズ, 呼吸器症候群第2版, 日本臨床社, pp 319-321, 2008.	中葉症候群 (舌区症候群)	阿部利夫, 吉原重美	小児科学
Pediatric International 50: 495-499, 2008	Survey of childhood asthma and use of inhaled therapy in the home in Japan using the Internet.	Yoshihara S, Yoshida T, Kurosaka F, Arisaka O, Furusho K	小児科学
J Allergy Clin Immunol 121:769-770, 2008 .	Genetic polymorphism regulating ORM1-like 3 (Saccharomyces cerevisiae) expression is associated with childhood atopic asthma in a Japanese population.	Hirota T, Harada M, Sakashita M, Doi S, Miyatake A, Fujita K, Enomoto T, Ebisawa M, Yoshihara S.	小児科学
日本小児アレルギー学会誌 22: 795-802, 2008.	栃木県における小児気管支喘息治療の実態調査～2002年と2006年の比較～。	吉原重美, 市橋光, 桃井真里子, 江口光興, 井原正博, 菅野訓子, 平尾準一, 有阪治:	小児科学
Prog Med 28:809-812, 2008.	ソロブテロール貼付薬 (ホクナリン®テープ) の重症小児気管支喘息における吸入ステロイド薬への追加効果。	吉原重美, 有阪治	小児科学
呼吸 27:999-1004, 2008.	小児気管支喘息患者を対象としたプロカテロール吸入液ユニットの使用感および利便性に関するアンケート調査	菅野訓子, 吉原重美, 山田裕美, 小野三佳, 阿部利夫, 有阪治	小児科学
呼吸器疾患診療マニュアル, 日本医師会雑誌 137:214-217, 2008.	小児気管支喘息.	吉原重美	小児科学
日本小児難治喘息・アレルギー疾患学会誌 6:205-208, 2008	小児気管支喘息の薬物によるEarly intervention.	吉原重美	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児疾患診療のための病態生理, 小児内科 増刊号 第4版 40:1374-1381, 2008.	気管支喘息	吉原重美	小児科学
呼吸と循環 56:919-924, 2008	小児喘息から成人喘息への移行について	吉原重美	小児科学
アレルギーの臨床27:943-950, 2008	難治化の防止に向けて1)小児喘息.	吉原重美	小児科学
喘息21:4-8, 2008	小児気管支喘息の気道炎症の評価-喀痰検査-	吉原重美	小児科学
アレルギーと神経ペプチド 4: 11, 2008	One airway, one diseaseと神経原性炎症.	吉原重美	小児科学
アレルギーと神経ペプチド 4:25-29, 2008.	ニューロステロイドの気道神経原性炎症抑制効果と細胞内シグナル伝達機構.	吉原重美	小児科学
Q & Aでわかるアレルギー疾患4: 592-594, 2008.	「小児のアレルギーマーチについて教えてください。また以前と比べてどのような変化がありますか?」.	吉原重美	小児科学
Pediatric Allergy for Clinicians 4:16-19, 2008.	小児のアナフィラキシー疾患におけるエピペン®の必要性	吉原重美, 福田啓伸	小児科学
アレルギーの臨床28:22-27, 2008	RSウイルス感染と喘息の発症.	山田裕美, 吉原重美	小児科学
Pediatric Allergy for clinicians 4:16-17, 2008.	専門病院における教育のノウハウ.	菅野訓子, 吉原重美	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Pediatric Allergy for Clinicians 4:60-61, 2008.	学校行事には発作がなければ参加しよう！アレルギー診療Q & A.	福田啓伸, 吉原重美	小児科学
北足立郡医師会会報236号, pp27-28, 2008.	乳幼児喘息治療を考える！	吉原重美	小児科学
高久史磨監修, メジカルビュー社, (35, 39, 120, 210, 346, 434, 438, 483, 534, 545, 568, 576, 800, 842, 893, 921, 1015, 1165, 1257, 1340, 1353, 1429, 1478, 1515, 1570, 1582, 1681, 1683, 1684, 1740, 1801, 1804, 1809, 1810, 1818, 1819-1820, 1825, 1904, 1992, 2021, 2044), 2008.	ステッドマン医学大辞典	志村直人	小児科学
講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 86-88. 2008.	肥満とやせ	志村直人	小児科学
講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 123-125. 2008.	食欲不振	志村直人	小児科学
講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 272-279. 2008.	ホルモンの種類、作用、作用機序	志村直人	小児科学
講義録 小児科学, 佐地勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司, 編, メジカルビュー社, 288-291. 2008.	思春期早発症、思春期遅発症.	志村直人	小児科学
ナースのための小児病態生理事典, 山城雄一郎, 編, ヘルス出版, 305-11. 2008.	先天性副腎過形成症.	志村直人、市川剛、有阪治	小児科学
ナースのための小児病態生理事典, 山城雄一郎, 編, ヘルス出版, 8-14. 2008.	成長障害	市川 剛、志村直人、有阪治	小児科学
The Lipids 19:203-207, 2008.	高度な代謝異常を合併し、治療に難渋した2型糖尿病の女子例	志村直人, 市川剛, 小嶋恵美, 山崎弦, 有阪治	小児科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
小児内科 40:584-585, 2008.	ヒトヘルペスウイルス-6による抗利尿ホルモン異常分泌症候群.	志村直人	小児科学
J Pediatr 152: 445-446, 2008.	Congenital left brachiocephalic vein and superior vena cava aneurysms in an infant: final update with an autopsy findings.	Nitta A, Nishikura K, Fukida H, Yoshihara S, Hirao J, Matsuda H, Arisaka O	小児科学
Pediatr Int 50: 696-697, 2008.	Congenital cystic periventricular leukomalacia in a small-for-gestational age full-term infant.	Nitta A, Suzumura H, Kano K, Arisaka O	小児科学
26: 71-74, 2006.	カルバミルリン酸合成酵素1欠損症の高アンモニア血症の1例.	大和田葉子, 志村直人, 金澤早苗, 宮本健志, 有阪治, 新田晃久, 和気晃司, 崎尾秀彰	小児科学
日本周産期・新生児医学会雑誌 44: 1233-1235, 2008.	修正42週および45週に肥厚性幽門狭窄症を発症した早産児二卵性双胎の双方発症例.	新田晃久, 山崎弦, 渡部功之, 鈴木宏, 有阪治	小児科学
小児科臨床 61: 1159-1162, 2008.	労作性熱中症に伴って肝障害を認めた3例.	西田光宏, 萩澤進, 平尾準一, 杉田憲一, 有坂治	小児科学
USA, p.133-140, 2008.	Vol II: Cancer Treatment and Therapy, 「TGF- $\beta$ and Progression of Esophageal Cancer」 Cancer Drug Discovery and Development Transforming Growth Factor- $\beta$ in Cancer Therapy	Fukuchi M, Kato H, Kuwano H:	第一外科学
総合医学社, pp 199-204, 2008	PET. 消化器外科学レビュー-2008 最新主要文献と解説	織内 昇, 加藤広行, 遠藤啓吾	第一外科学
中外医学社, pp. 19-21, 2008.	5. 食道癌の術前化学放射線療法 (CRT). 消化器癌の外科治療 1. 消化管 こんなときどうするQ&A	中島政信, 加藤広行, 桑野博行	第一外科学
Anticancer Res. 28:165-9, 2008.	Preoperative serum vascular endothelial growth factor-C (VEGF-C) levels predict recurrence in patients with esophageal cancer.	Kimura H, Kato H, Tanaka N, Inose T, Faried A, Sohda M, Nakajima M, Fukai Y, Miyazaki T.	第一外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Oncol Rep. 20:857-62, 2008.	The additional value of integrated PET/CT over PET in initial lymph node staging of esophageal cancer.	Kato H, Kimura H, Nakajima M, Sakai M, Sano A, Tanaka N, Inose T, Faried A, Saito K, Jeta K, Sohda M, Fukai Y, Miyazaki T, Masuda N, Fukuchi M, Ojima H, Tsukada K, Oriuchi N, Endo K, Kuwano H	第一外科学
Br J Cancer. 99:1468-75, 2008.	Expression of carbonic anhydrase 9, a potential intrinsic marker of hypoxia, is associated with poor prognosis in oesophageal squamous cell carcinoma.	Tanaka N, Kato H, Inose T, Kimura H, Faried A, Sohda M, Nakajima M, Fukai Y, Miyazaki T.	第一外科学
Jpn J Clin Oncol. 38:839-43, 2008.	Clinical Significance of Plasma Level of Vascular Endothelial Growth Factor-C in Patients with Colorectal Cancer.	Miyazaki T, Okada N, Ishibashi K, Ogata K, Ohsawa T, Ishiguro T, Nakada H, Yokoyama M.	第一外科学
Hepatogastroenterology. 55:1636-9, 2008.	Prolonged antibiotic prophylaxis longer than 24 hours does not decrease surgical site infection after elective gastric and colorectal surgery.	uehiro T, Hirashita T, Araki S, Matsumata T, Tsutsumi S, Mochiki E, Kato H, Asao T.	第一外科学
Hepatogastroenterology. 55:1242-5, 2008.	Diagnostic usefulness of FDG-PET for malignant somatostatinoma of the pancreas.	Suzuki H, Kuwano H, Masuda N, Hashimoto S, Kanoh K, Nomoto K, Shimura T, Kato H	第一外科学
Surg Today. 38:651-5, 2008.	Esophageal granular cell tumor covered by intramucosal squamous cell carcinoma: Report of a case	Saito K, Kato H, Fukai Y, Kimura H, Miyazaki T, Kashiwabara K, Nakajima T, Kuwano H:	第一外科学
Surg Today. 38:836-40, 2008.	Diaphragmatic hernia with ischemic bowel obstruction in pregnancy: Report of a case.	Sano A, Kato H, Hamatani H, Sakai M, Tanaka N, Inose T, Kimura H, Kuwano H	第一外科学
関東リウマチ 41:7-17, 2008	小腸穿孔を繰り返し、下大静脈血栓症を併発したSLE ループス腸炎の関与が疑われた一例	安藤麻梨子、安田正人、橋本姿恵、永井弥生、石川治、宮崎達也、加藤広行	第一外科学
Esophagus 5:61-73, 2008	Guidelines for diagnosis and treatment of carcinoma of the esophagus April 2007 edition:part I Edited by the Japan Esophageal Society.	Kuwano H, Nishimura Y, Ohtsu A, Kato H, Kitagawa Y, Tamai S, Toh Y, Matsubara H	第一外科学
Esophagus 5:117-132, 2008.	Guidelines for diagnosis and treatment of carcinoma of the esophagus April 2007 edition:part II Edited by the Japan Esophageal Society.	Kuwano H, Nishimura Y, Ohtsu A, Kato H, Kitagawa Y, Tamai S, Toh Y, Matsubara H	第一外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
消化器外科 31:1587-1592, 2008.	進行食道癌治療のガイドラインの主な変更点	中島政信、加藤広行、桑野博行	第一外科学
消化器外科31:1611-1621, 2008.	頸部進行食道癌に対する手術	加藤広行、宮崎達也、桑野博行	第一外科学
消化器外科 31:1751-1762, 2008.	下部食道噴門癌手術	加藤広行、宗田真、桑野博行	第一外科学
臨床外科 63:1175-1181, 2008.	【がんの切除範囲を考える 診断法とその妥当性】 食道癌の切除範囲を考える.	加藤広行、中島政信、宍藤加奈、桑野博行:	第一外科学
手術 62:911-916, 2008.	食道(癌)手術における術中トラブル対処法】 気管・気管支損傷	加藤広行、桑野博行	第一外科学
内科 101:1095-1099, 2008.	【内科必携画像診断 Imaging Revolution】 消化器 食道癌.	加藤広行、桑野博行	第一外科学
臨床消化器内科 23:1013-1020, 2008.	【食道疾患の臨床 update】 食道癌 治療法の選択.	加藤広行、中島政信、桑野博行	第一外科学
小児内科 40:696-699, 2008.	小児の急性腹症—その時どうする 腸回転異常症.	薄井佳子、大谷俊樹、岡本健太郎、井上裕美、土岡丘、藤原利男、砂川正勝	第一外科学
日本内視鏡外科学会雑誌 13:307-311, 2008.	細径腹腔鏡(2mm径)による非触知停留精巢の診断と治療	吉田竜二、藤原利男、土岡丘、岩谷さおり、薄井佳子、砂川正勝	第一外科学
小児内科 40:696-699, 2008.	腸回転異常症.	薄井佳子、大谷俊樹、岡本健太郎、井上裕美、土岡丘、藤原利男、砂川正勝	第一外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Surg Today 38:115-122, 2008.	Depth of tumor invasion in locally advanced rectal cancer correlates with patients' prognosis: The Usefulness of Elastic Stain for Its Measurement.	Katsumata D, Fukui H, Ono Y, Ichikawa K, Tomita S, Imura J, Abe A, Fujita M, Watanabe O, Tsubaki M, Sunagawa M, Fujimori T	第一外科学
日本外科系連合会誌 34: 22-26, 2008.	大腸憩室疾患手術症例の検討	椿昌裕, 渡辺理, 伊藤友一, 藤田昌紀, 砂川正勝	第一外科学
Gastroenterol Endosc 50: 1592-1596, 2008.	内視鏡的に切除し得た巨大過形成性ポリープの1例	里村仁志, 佐々木欣郎, 深町伸, 萩原信悟, 円谷美也子, 田口泰三, 依田紀仁, 宮地和人, 砂川正勝, 市川一仁	第一外科学
臨床消化器内科 23: 1005-1012, 2008.	PETの意義.	百目木泰, 村上康二, 山崎英玲奈, 北島一宏, 岸本グスタボ, 宮地和人, 佐々木欣郎, 砂川正勝	第一外科学
Eur J Pharmacol 587:248-252, 2008.	Protective effect of Sivelestat in a porcine hepatectomy model prepared using an intermittent Pringle method.	. Shimoda M, Iwasaki Y, Okada T, Sawada T, Kubota K	第二外科学
Hepato-Gastroenterology 55: 1705-1709, 2008.	Serum $\alpha$ -fetoprotein Level per Tumor Volume Reflects Prognosis in Patients with Hepatocellular Carcinoma after Curative Hepatectomy	. Furihata T, Sawada T, Kita J, Iso Y, Kato M, Rokkaku K, Shimoda M, Kubota K	第二外科学
J Invest Surg 21: 9-14, 2008.	Usefulness of Groshong catheters for central venous access via the external jugular vein	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Horie T, Sawada T, Kubota K	第二外科学
Ann Surg 247:1085-1086, 2008.	Influence of preoperative inflammation on outcomes of colorectal cancer surgery	Ishizuka M, Sawada T, Kubota K	第二外科学
A Prospective, Randomized, Controlled Study World Journal of Surgery :1082-1087, 2008.	Effect of Infra-hepatic Inferior Vena Cava Clamping on Bleeding During Hepatic Dissection :	Kato M, Kubota K, Kita J, Shimoda M, Rokkaku K, Sawada T	第二外科学
Surgery 143: 556-565, 2008.	Erythropoietin and its derivative protect the intestine from severe ischemia/reperfusion injury in the rat.	Mori S, Sawada T, Kubota K:	第二外科学



2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepato-Gastroenterol55:1274-1279, 2008.	Anti-proliferative effect of interferon $\gamma$ is enhanced by iron chelation in colon cancer cell lines in vitro.	Mori S, Sawada T, Okada T, Kubota K	第二外科学
BMC Cancer8:167-174, 2008.	Expression of hepcidin-mRNA is uniformly suppressed in hepatocellular carcinoma	.Kijima H, Sawada T, Tomosugi N*, Kubota K	第二外科学
World J Gastroenterol14:1378-1382, 2008.	MK615 inhibits pancreatic cancer cell growth by dual inhibition of Aurora A and B kinases.	Okada T, Sawada T, Osawa T*, Adachi M*, Kubota K	第二外科学
Medical Postgraduates46 : 52-58, 2008.	間歇的肝門部血行遮断を用いたブタ肝切除モデルにおけるエダラボンの保護効果	岩崎喜実、下田貢、岡田としえ、澤田登起彦、窪田敬一	第二外科学
World J Surg Oncol6:48, 2008.	Case report Middle bile duct cancer with portal vein tumor thrombus	Shimoda M, Iso Y, Tomita S*, Fujimori T, * Murakami K**, Sawada T, Kubota K	第二外科学
The Open Transplantation Journal2:73-76, 2008	Epstein-Barr Virus-Negative Lymphoproliferative Disorders after Liver Transplantation	Shimoda M, Kita J, Kato M, Sawada T, Kubota K:	第二外科学
Hepatogastroenterology55 :1553-1556, 2008.	Life-threatening bleeding from duodenal varices due to pancreatic arterio-venous malformation:role of emergency pancreatoduodenectomy.	Perera MT, Shimoda M, Kato M, Abe A, Yamazaki R, Sawada T, Kubota K	第二外科学
Surg Today38: 458-462, 2008.	Ball-valve gastric tumor associated with anomalous junction of the pancreatico-biliary ductal system and a right-sided round ligament.	Iso Y, Sawada T, Rokkaku K, Shimoda M, Kubota K	第二外科学
Med Sci Monit14: 130-133, 2008.	Xanthogranulomatous lesion of the pancreas mimicking pancreatic cancer.	Iso Y, Tagaya N, Kita J, Sawada T, Kubota K	第二外科学
Tumori94:411-415, 2008.	Undifferentiated carcinoma of the esophagus with rapid growth of lymph node: a case report and review of the literature.	.Mori S, Tagaya N, Hamada K, Nakagawa A, Sawada T, Honma K*, Kubota K	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別冊 : 85-87, 2008.	吻合にアナストクリップを用いた、人工血管移植の経験例 腎と透析	加藤正人、澤田登起彦、小菅崇之、窪田敬一	第二外科学
2008; 247: 1088.	A critical review of the Glasgow Prognostic Score for colorectal cancerAnn Surg.	Ishizuka M, Sawada T, Kubota K:	第二外科学
外科70 : 955-958, 2008	術後胆道合併症防止とその対策 II. 両性疾患 3. 胆道拡張症	澤田登起彦、窪田敬一	第二外科学
DRUG METABOLISM AND DISPOSITION36:1786-1793, 2008	Decreased expression of cytochromes P450 1A2, 2E1, and 3A4 and Drug Transporters Na <sup>+</sup> -taurocholate-cotransporting polypeptide, organic cation transporter 1, and organic anion-transporting peptide-C correlates with the progression of liver fibrosis in chronic hepatitis C patients	Nakai K*, Tanaka H*, Hanada K* <sup>1</sup> , Ogata H*, Suzuki F* <sup>1</sup> , Kumada H*, Miyajima A*, Ishida S*, Sunouchi M*	第二外科学
1705-1709, 2008.	Serum $\alpha$ -fetoprotein Level per Tumor Volume Reflects Prognosis in Patients with Hepatocellular Carcinoma after Curative HepatectomyHepato-Gastroenterology55:	Furihata T, Sawada T, Kita J, Iso Y, Kato M, Rokkaku K, Shimoda M, Kubota K:	第二外科学
手術62 : 819-824, 2008.	肝尾状葉の解剖アトラス	北 順二, 窪田敬一	第二外科学
手術62 : 1235-1240, 2008	細くて薄い胆管の再建	北 順二, 喜島博章, 窪田敬一	第二外科学
Modern Physician28 : 1041-1046,2008.	肝臓癌の診断のサーベイランス	北 順二, 窪田敬一	第二外科学
Medical Postgraduates46 : 52-58, 2008.	間歇的肝門部血行遮断を用いたブタ肝切除モデルにおけるエダラボンの保護効果	岩崎喜実、下田貢、岡田としえ、澤田登起彦、窪田敬一	第二外科学
J Gastroenterol Hepatol23:498, 2008.	Education and imaging. Hepatobiliary and pancreatic: arteriovenous malformation of the pancreas.	Yamamoto K*, Tominaga K*, Kanke K*, Iijima M*, Abe A, Shimoda M, Kubota K, Hiraishi H*	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Tompkins (ed), Nova Biomedical Books, Nova Science Publishers, Inc., New York, pp 259-272, 2008	Laparoscopic resection of gastrointestinal mesenchymal tumors in the upper stomach. Gastric Cancer Research Trends, Marilyn B.	Tagaya N, Kubota K	第二外科学
動画でわかる腹腔鏡下胆嚢摘出術, 松本純夫(編), 中山書店, pp 89-94, 2008.	困難症例への対応-4. 開腹移行のタイミナー.	多賀谷信美	第二外科学
内視鏡外科診療ガイドライン2008年版, 日本内視鏡外科学会(編), 金原出版株式会社, pp 74-77, 2008.	腹腔鏡下胆嚢摘出術における開腹移行について.	多賀谷信美	第二外科学
Obesity Surgery 18: 1473-1478, 2008.	Has laparoscopic bariatric surgery been accepted in Japan? The experience of a single surgeon.	Kasama K <sup>1</sup> , Tagaya N, Kanahira E <sup>1</sup> , Umezawa A <sup>1</sup> , Kurosaki T <sup>1</sup> , Oshiro T <sup>1</sup> , Ishikawa M <sup>1</sup> .	第二外科学
Clin Radiol63: 396-400, 2008.	Experience with ultrasonographically guided vacuum-assisted resection of benign breast tumors.	Tagaya N, Nakagawa A, Ishikawa Y*, Oyama T**, Kubota K	第二外科学
Am J Surg 195: 850-853, 2008.	Intraoperative identification of sentinel lymph nodes by near-infrared fluorescence imaging in patients with breast cancer.	Tagaya N, Yamazaki R, Nakagawa A, Abe A, Hamada K, Kubota K, Oyama T*	第二外科学
胆道 22: 169-174, 2008	細径鉗子・内視鏡を用いた急性胆嚢炎および炎症消退後慢性胆嚢炎症例に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の経験	多賀谷信美、窪田敬一	第二外科学
乳癌基礎研究 17:43-48, 2008.	Triple negative乳癌の組織亜型とEGFR (epidermal growth factor receptor), Cytokeratin 5/6, 14および関連蛋白発現の検討.	石川裕子、小山徹也、林光弘、多賀谷信美、戸谷裕之、鯉淵幸雄、堀口淳、竹吉泉、飯野佑一	第二外科学
Med Sci Monit14: 130-133, 2008	Xanthogranulomatous lesion of the pancreas mimicking pancreatic cancer.	Iso Y, Tagaya N, Kita J, Sawada T, Kubota K	第二外科学
J Surg Oncol98: 67-69, 2008.	External jugular venous catheterization with a Groshong catheter for central venous access	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Kubota K	第二外科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Hepatogastroenterology55 : 430-433, 2008.	POSSUM is an optimal system for predicting mortality due to colorectal perforation	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Horie T, Kubota K	第二外科学
J Gastrointest Surg13: 550-554, 2009.	Transnasal Fine Gastrointestinal Fiberscope-guided long Tube Insertion for Patients with Small Bowel Obstruction	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Kubota K	第二外科学
Eur Surg Res41:341-345, 2008.	Total parenteral nutrition is a major risk factor for central venous catheter-related bloodstream infection in colorectal cancer patients receiving postoperative chemotherapy.	Ishizuka M, Nagata H, Takagi K, Kubota K	第二外科学
Pouch Surg Laparosc Endosc Percutan Tech18:486-488, 2008.	Endoscopy-assisted Transanal Division of an Apical Pouch Bridge After Restorative Proctocolectomy With a J-shaped Ileal	Takagi K, Nagata H, Ishizuka M, Sakuraoka Y, Kubota K	第二外科学
Jpn J Clin Oncol 38:296-304, 2008.	Advisory Committee for Oxycodone Study : Opioid rotation from oral morphine to oral oxycodone in cancer patients with intolerable adverse effects: an open-label trial.	Narabayashi M, Saijo Y, Takenoshita S, Chida M, Shimoyama N, Miura T, Tani K, Nishimura K, Onozawa Y, Hosokawa T, Kamoto T, Tsushima T	外科学 (胸部)
Eur J Cardiothorac Surg 34:878-881, 2008.	Subclinical idiopathic pulmonary fibrosis is also a risk factor of postoperative acute respiratory distress syndrome following thoracic surgery.	Chida M, Ono S, Hoshikawa Y, Kondo T	外科学 (胸部)
胸部外科 61:968-971, 2008.	肺癌手術における気管支・肺動脈形成術の検討	関 哲男, 小林 哲, 田村元彦, 荒木 修, 苅部陽子, 梅津英央, 石濱洋美, 石濱洋美, 長井千輔, 千田雅之, 三好新一	外科学 (胸部)
胸部外科 61:972-975, 2008	気管形成の特殊例 - 喉頭再建と分岐部再建.	千田雅之, 箕輪宗生, 江場俊介, 苅部陽子	外科学 (胸部)
胸部外科 61:853-856, 2008.	声門下狭窄に対する気管切開部を残した輪状軟骨弓部切除・気管甲状軟骨吻合	千田雅之, 箕輪宗生, 江場俊介, 須田秀一	外科学 (胸部)
臨床呼吸生理 40:49-52, 2008.	当科における肺癌に対する気管支・肺動脈形成術の検討.	小林 哲, 荒木 修, 苅部陽子, 関 哲男, 田村元彦, 梅津英央, 石濱洋美, 長井千輔, 澤端章好, 三好新一郎	外科学 (胸部)

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胸部外科 61:968-971, 2008.	肺癌手術における気管支・肺動脈形成術の検討	関 哲男, 小林 哲, 田村元彦, 荒木 修, 荏部陽子, 梅津英央, 石濱洋美, 石濱洋美, 長井千輔, 千田雅之, 三好新一	外科学 (胸部)
Biomedical Research 29: 155-161, 2008.	Possible role of the RhoC/ROCK pathway in progression of clear cell renal cell carcinoma.	Abe H, Kamai T, Tsujii T, Nakamura F, Mashidori T, Mizuno T, Tanaka M, Tatsumiya K, Furuya N, Masuda	泌尿器科学
Int J Cancer 122:2391-2397, 2008	High expression of Ran GTPase is associated with local invasion and metastasis of human clear cell renal cell carcinoma.	Abe H, Kamai T, Shirataki H, Oyama T, Arai K, Yoshida K-I	泌尿器科学
泌尿器外科 21: 557-565, 2008.	特集 過活動膀胱を再考する 過活動膀胱診療における排尿機能検査の意義を見直す	山西友典, 吉田謙一郎	泌尿器科学
下部尿路機能障害の病態に応じた治療の実際「単行本ファーマナビゲーターシリーズ」(下部尿路機能障害編) pp156-169. メディカルレビュー 東京 2008	過活動膀胱病態に応じた薬物療法	山西友典.	泌尿器科学
永井書店 東京 2008	前立腺肥大症と尿失禁、尿滴下「よくわかって役に立つ前立腺肥大症のすべて」(平尾 佳彦編) pp111-120	山西友典	泌尿器科学
高齢者の排泄を惹起する病態—診断と治療—、高齢者の排泄ケア pp53-60, 長寿科学振興財団. 愛知、2008	低活動膀胱の一般的な解説と評価・治療法	山西友典	泌尿器科学
リッチヒルメディカル 東京 2008	アジアにおけるBPHの疫学「New Concepts of BPH/LUTS」(山口脩、西澤理、塚本泰司、武田正之 編) pp94-98.	山西友典	泌尿器科学
MCメディカ出版 大阪 2008	尿失禁、排尿障害の基礎知識「尿失禁女性urologic diseasesのケア」(加藤久美子監修) pp8-31.	山西友典	泌尿器科学
Blackwell Publishing 東京2008	男性下部尿路症状診療ガイドライン	本間之夫、荒木勇雄、井川靖彦、大園誠一郎、後藤百万、山西友典、横山修、吉田正貴、日本排尿機能学会男性下部尿路症状	泌尿器科学

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
115:443-460, 2008	Bladder and bowel dysfunction in Parkinson's disease. J Neural Transm.	Sakakibara R, Uchiyama T, Yamanishi T, Shirai K, Hattori T	泌尿器科学
Neurourol Urodyn 27:507-510, 2008	Mechanism of bladder dysfunction in idiopathic normal pressure hydrocephalus.	Sakakibara R, Kanda T, Sekido T, Uchiyama T, Awa Y, Ito T, Liu Z, Yamamoto T, Yamanishi T, Yuasa T, Shirai K, Hattori T	泌尿器科学
Eur Neurol 60:97-100, 2008	Pelvic Autonomic Dysfunction without Paraplegia: A Sequel of Spinal Cord Stroke.	Sakakibara R, Yamaguchi C, Uchiyama T, Ito T, Liu Z, Yamamoto T, Awa Y, Yamanishi T, Hattori T	泌尿器科学
J Endourol 22:1569-1572, 2008	Three-Dimensional Image Processing System for the Ureter and Urethra Using Endoscopic Video.	Igarashi T, Zenbutsu S, Yamanishi T, Naya Y	泌尿器科学
Int J Urol 15:816-820, 2008	A reliable tool in the overall assessment of lower urinary tract symptoms.	Homma Y, Yoshida M, Yamanishi T, Gotoh M: Core Lower Urinary Tract Symptom Score (CLSS) questionnaire	泌尿器科学
夜尿症研究、13:19-23, 2008	夜尿症における膀胱訓練	山西友典、水野智弥、中西公司、古谷信隆、渡辺美穂、真志取智子、龍宮克尚、吉田謙一郎、濱野聡、網谷兆康	泌尿器科学
夜尿症研究、13:67-71, 2008	夜尿症治療例および非治療例における初診時背景因子の検討	網谷兆康、山西友典、安田耕作、吉田謙一郎、中津裕臣、江村正博、佐々木 真、新保正貴、島 政之、鈴木規之、富岡 達、田中方士、村上信乃	泌尿器科学
Intern Med47:655-657, 2008	Urinary retention without tetraparesis as a sequel to spontaneous spinal epidural hematoma.	Sakakibara R, Yamazaki M, Mannouji C, Yamaguchi C, Uchiyama T, Ito T, Liu Z, Yamamoto T, Awa	泌尿器科学
Int J Urol 15:665-72, 2008	Neuromodulation for the treatment of urinary incontinence.	Yamanishi T, Kamai T, Yoshida K-I	泌尿器科学
Int J Urol. 15:778-788, 2008	Dementia and lower urinary dysfunction: With a reference to anticholinergic use in elderly population.	Sakakibara R, Uchiyama T, Yamanishi T, Kishi M	泌尿器科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
臨床泌尿器科、 62(増):143-145, 2008	42. 時々夜尿症のある男児. 神経因性膀胱障害と尿失禁【(遺尿症(夜尿症)) 泌尿器科外来ベストナビゲーション-ここが聞きたい96例の対処と処方	山西友典、水野智弥、吉田謙一郎	泌尿器科学
臨床泌尿器科、 62(増):146-148, 2008	43. 抗コリン薬による口腔内びらんを来した夜尿症児. 神経因性膀胱障害と尿失禁【(遺尿症(夜尿症)) 泌尿器科外来ベストナビゲーション-ここが聞きたい96例の対処と処方.	山西友典、水野智弥、吉田謙一郎	泌尿器科学
泌尿器外科、21:557-565, 2008	過活動膀胱診療における排尿機能検査の意義を見直す. 過活動膀胱を再考する	山西友典、吉田謙一郎	泌尿器科学
b 下部尿路、Mebio 25:6- 13, 2008	内視鏡全体画像の応用	山西友典、龍宮克尚、吉田謙一郎、金水英俊、小瀧隆英、五十嵐辰男:	泌尿器科学
排尿障害プラクティス、 16:107-112, 2008	排尿筋収縮力増強作用/外尿道括約筋弛緩作用: GABA 活性化薬他、排尿に関する新規治療薬-可能性のある薬剤も含めて-	山西友典、吉田謙一郎	泌尿器科学
Prog Med 28:1397-1402, 2008	専門医との連携、プライマリ・ケアにおける下部尿路機能障害へのアプローチ.	山西友典、吉田謙一郎	泌尿器科学
泌尿外 21:976-978, 2008	過活動膀胱とウロダイナミクス検査の再考	柿崎秀宏、山西友典	泌尿器科学
自立神経、45:92-96, 2008	糖尿病における過活動膀胱: 中枢および末梢の関与	榊原隆次、山口千晴、内山智之、伊藤敬志、劉志、山本達也、阿波祐輔、岸雅彦、山西友典、服部孝道	泌尿器科学
排尿障害プラクティス、印 刷中62:344-347, 2008	トフラニール. 治療法紹介	山西友典、吉田謙一郎	泌尿器科学
(パンフレット)2008	腹部エコーで簡単「残尿測定」	山西友典	泌尿器科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
pp17-18, 2008	ICS2007 report	山西友典	泌尿器科学
Endocr J. 55:657-665, 2008	A novel splice variant of the nuclear coactivator p120 functions strongly for androgen receptor: characteristic expression in prostate disease.	Hosoya T, Monden T, Fukabori Y, Hashimoto K, Satoh T, Kasai K, Yamada M, Mori M.:	泌尿器科学
日本腎泌尿器疾患予防医学研究会誌 16: 81-83, 2008	栃木県における前立腺癌検診の現状と問題点、	深堀能立、古谷信隆、龍宮克尚、新井京子、大出定夫、山根則幸、吉田謙一郎:	泌尿器科学
Biomedical Research 29:19-25, 2008	Significant association of interleukin 10 receptor mRNA levels with renal cell carcinoma metastasis.	Abe H, Yamanishi T, Mashidori T, Arai K, Kamai T	泌尿器科学
『手術前眼部』 pp36-37, 中山書店, 2008.	角膜移植のコツと落とし穴. 樋田哲夫, 江口秀一郎編, 眼科診療のコツと落とし穴1	妹尾正	眼科学
『手術前眼部』 pp50-52, 中山書店, 2008.	DLKP (DALK) のコツと落とし穴. 樋田哲夫, 江口秀一郎編, 眼科診療のコツと落とし穴1	妹尾正	眼科学
Expert Rev. Med. Devices 5: 197-207, 2008.	Preventing secondary cataract and anterior capsule contraction by modification of intraocular lenses.	Matsushima H, Iwamoto H, Mukai K, Katsuki Y, Nagata M and Senoo T:	眼科学
あたらしい眼科 25: 549-552, 2008.	蜂毒のみで水疱性角膜症と白内障をきたした症例.	高望美, 千葉桂三, 菊池道晴, 妹尾正, 千種雄一	眼科学
臨眼 62: 995-999, 2008.	マイボーム腺吸引器の試作.	寺田理, 千葉桂三, 妹尾正	眼科学
眼紀 1: 876-879, 2008.	ヒト結膜神経の免疫染色による比較.	千葉桂三, 寺田理, 向井公一郎, 妹尾正	眼科学



2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
眼科手術 21: 501-505, 2008.	角膜選考に対する生体接着剤を用いた治療的角膜移植術.	並木滋土, 寺田理, 大沼恵理, 千葉桂三, 妹尾正	眼科学
眼紀 1: 868-870, 2008.	角膜知覚と不定愁訴の関係について.	千葉桂三, 寺田理, 妹尾正	眼科学
臨眼62: 1911-1914, 2008.	加齢および眼手術に伴う結膜を主とした眼表面の知覚変化.	千葉桂三, 寺田理, 妹尾正	眼科学
眼科臨床紀要 1: 1168-1171, 2008.	TNF阻害療法中に併発白内障手術を施行したベーチェット病の1症例.	鈴木重成, 妹尾正	眼科学
IOL & RS 22: 486-489, 2008.	インジェクターによる眼内レンズ挿入の角膜および強角膜切開創への影響.	青瀬雅資, 松島博之, 後藤憲仁, 向井公一郎, 妹尾正	眼科学
若倉雅登, 稲富誠編, 眼科実践 Q & A 「診療力」を鍛える114題 南江堂, pp12-12, 2008.	細隙灯顕微鏡はどうやって使うか.	後藤憲仁, 寺内渉, 松島博	眼科学
若倉雅登, 稲富誠編, 眼科実践 Q & A 「診療力」を鍛える114題 南江堂, pp152-153, 2008.	眼内レンズはどのような点に注意して選択すべきか.	松島博之	眼科学
若倉雅登, 稲富誠編, 眼科実践 Q & A 「診療力」を鍛える114題 南江堂, pp158-160, 2008.	超音波乳化吸引術ではどのような術中設定にすればよいか.	松島博之	眼科学
若倉雅登, 稲富誠編, 眼科実践 Q & A 「診療力」を鍛える114題 南江堂, pp166-168, 2008.	後発白内障に対するYAGレーザーの適切な使用法は	松井英一郎, 松島博之	眼科学
J Cataract Refract Surg 34: 1495-1498, 2008.	Comparison of anterior capsule contraction between 5 foldable intraocular lens models.	Nagata M, Matsushima H, Mukai K, Terauchi W, Gotoh N, Matsui E:	眼科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
IOL & RS 22: 3-9, 2008.	囊収縮と眼内レンズの偏位.	永田万由美, 松島博之	眼科学
日本の眼科 79: 1095-1096, 2008.	Malyugin瞳孔拡張器のintraoperative floppy-iris syndrome (IFIS)への使用経験.	松島博之	眼科学
眼科ケア 10: 88-92, 2008.	最近の眼内レンズと色覚.	松島博之	眼科学
眼科臨床医報 101: 1075-1078, 2007.	結膜結石の元素分析.	千葉桂三, 寺田理, 妹尾正	眼科学
肥塚泉編, すぐに役立つ外来耳鼻咽喉科疾患診療のコツ, 全日本病院出版社, pp223-227, 東京, 2008.	E. てこずる耳鼻咽喉科疾患の外来治療 好酸球性副鼻腔炎.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
橋本隆男、佐藤隆司、豊島聰編, 疾病と病態生理, 南江堂, pp326-327, 東京, 2008	扁桃炎.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
橋本隆男、佐藤隆司、豊島聰編, 疾病と病態生理, 南江堂, pp328-329, 東京, 2008.	急性副鼻腔炎.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
橋本隆男、佐藤隆司、豊島聰編, 疾病と病態生理, 南江堂, pp329-333, 東京, 2008.	鼻茸. 慢性副鼻腔炎.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
橋本隆男、佐藤隆司、豊島聰編, 疾病と病態生理, 南江堂, pp334-335, 東京, 2008.	中耳炎.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
橋本隆男、佐藤隆司、豊島聰編, 疾病と病態生理, 南江堂, pp335, 東京, 2008.	メニエール病.	春名眞一	耳鼻咽喉科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
橋本隆男、佐藤隆司、豊島聰編, 疾病と病態生理, 南江堂, pp335, 東京, 2008.	突発性難聴.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
疾病と薬パーフェクトBOOK, 南山堂, pp1246-1252, 東京, 2008.	副鼻腔炎.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
Allergology International 57 : 429-36, 2008.	Correlation between the prostaglandin D(2)/E(2) ratio in nasal polyps and the recalcitrant pathophysiology of chronic rhinosinusitis associated with bronchial asthma.	Yoshimura T, Yoshikawa M, Otori N, Haruna S, Moriyama H	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科展望 51 : 26-32, 2008.	喘息を合併する慢性副鼻腔炎におけるロイコトリエンの関与について.	吉村剛, 吉川衛, 鴻信義, 春名眞一, 森山寛	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科展望 51 : 326-329, 2008.	当科におけるナビゲーションシステムを用いた内視鏡下鼻内副鼻腔手術.	飯村慈朗, 平林秀樹, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
Auris Nasus Larynx 35 : 587-91, 2008.	Intramuscular hemangioma of masseter muscle with prominent formation of phleboliths: a case report.	Kanaya H, Saito Y, Gama N, Konno W, Hirabayashi H, Haruna S	耳鼻咽喉科学
鼻アレルギーフロンティア 7-1 : 50-54, 2007	病診・診療連携 眼窩吹き抜け骨折における病診連携.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科展望 51 : 302-307, 2008.	後鼻腔閉塞をきたした上咽頭嚢胞の1症例.	志村英二, 飯村慈朗, 月舘利治, 平林秀樹, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科展望, 51 : 308-313, 2008.	眼窩尖端部へ進展した副鼻腔真菌症の1症例.	高宮優子, 飯村慈朗, 今野渉, 月舘利治, 深美悟, 平林秀樹, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
JOHNS 24 : 185-188, 2008.	【副鼻腔手術を極める】内視鏡下鼻副鼻腔手術における留意点とコツ 小児副鼻腔炎に対する手術.	春名眞一	耳鼻咽喉科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
JOHNS 24 : 404-408, 2008.	【手術・処置に役立つ臨床解剖】 内視鏡下の前頭洞手術のための臨床解剖.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科・頭頸部外科 80増刊 : 87-95, 2008.	オフィスサージャリー・ショートステイサージャリー 内視鏡下鼻内副鼻腔手術.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
JOHNS 24 : 1637-1640, 2008.	手術手技 私が愛用する手術器具 内視鏡下鼻内副鼻腔手術用細型鉗子類.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
小児科診療 71 : 1741-1747, 2008.	【小児耳鼻咽喉科をめぐる最近の話題】 小児耳鼻咽喉科疾患治療の最前線 小児急性副鼻腔炎の合併症 手術が必要なとき.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
頭頸部外科 18 : 15-117, 2008.	副鼻腔嚢胞性疾患 内視鏡手術.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
日本医師会雑誌137 : 1838, 2008.	ひとくちメモ 耳鼻咽喉科領域における内視鏡外科手術.	春名眞一	耳鼻咽喉科学
栃木県医学会会誌 38 : 111-114, 2008.	当科における口蓋扁桃摘出術の術後出血症例の検討.	山川秀致, 小泉さおり, 中島逸男, 深美悟, 平林秀樹, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
日本耳鼻咽喉科学会会報 111 : 701-702, np1, 703-704, 2008.	診断に苦慮した喉頭サルコイドーシスの1症例.	飯村慈朗, 今野涉, 小泉さおり, 安村佐都紀, 浅井正嗣, 平林秀樹, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科臨床 101 : 244-245, 2008.	研修ノート 気道異物の診断と治療.	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
ENTONI 86 : 44-49, 2008.	【乳・幼児の耳鼻咽喉科疾患 外来診療のコツ】 多い疾患治療のコツ 異物.	平林秀樹	耳鼻咽喉科学

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本医事新報 4388 : 107-109, 2008.	気管支異物の除去.	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
小児耳鼻咽喉科 29 : 181-185, 2008.	How I do it? 気管切開術.	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
JOHNS 24(8) : 1207-1210, 2008.	【短期滞在手術と耳鼻咽喉科】喉頭・気管・食道疾患と短期滞在手術 気道・食道異物.	平林秀樹	耳鼻咽喉科学
臨床と研究, 85巻2号 : 182-186, 2008.	【増加するアレルギー疾患の治療】最新の治療ガイドライン アレルギー性鼻炎.	深美悟, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
ENTONI 84 : 34-39, 2008.	耳鼻咽喉科医に必要な補聴器の知識update-補聴器使用中のトラブルと対応.	深美悟	耳鼻咽喉科学
小児科 49 : 425-433, 2008.	【小児の頭痛】鼻・副鼻腔疾患からみた頭痛の診断・治療.	深美悟, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
耳鼻咽喉科展望 51 : 104-109, 2008.	めまいを主訴としたArnold-Chiari奇形の1症例.	山本耕司, 富谷義徳, 添田一弘, 月館利治, 飯野孝, 小森敦史, 澤田弘毅	耳鼻咽喉科学
小児耳鼻咽喉科 29(3) : 169-172, 2008.	How I do it? 鼻茸切除術(I).	月館利治, 春名眞一	耳鼻咽喉科学
標準形成外科学第5版, 外傷, 特殊部位の治療, 秦維郎, 野崎幹弘編, 医学書院, 東京, pp171-177, 2008.	顔面各部の損傷.	朝戸裕貴	形成外科学
形成外科 51 : 755-764, 2008.	小耳症手術に対する最近の工夫.	朝戸裕貴, 鈴木康俊, 加我君孝, 竹腰英樹, 加地展之, 三苦葉子	形成外科学

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Facial N Res 28: 11-13, 2008.	遊離広背筋移植術を中心とした顔面神経麻痺に対する形成手術.	朝戸裕貴	形成外科学
Facial Nerv Res 27: 196-198, 2008.	下口唇麻痺に対して筋切離術を加えた治療の経験.	鈴木康俊, 朝戸裕貴, 福田憲翁, 梅川浩平, 沖正直, 倉林孝之, 上田和毅	形成外科学
日頭顎顔会誌24: 13-19, 2008.	側頭骨亜全摘後の顔面神経麻痺に対する形成手術の経験.	梅川浩平, 朝戸裕貴, 鈴木康俊, 内藤崇, 多久嶋亮彦	形成外科学
形成外科51: S47-S52, 2008.	急性創傷治療のアルゴリズム.	鈴木康俊, 朝戸裕貴	形成外科学
医事新報4382: 93-94, 2008.	顔面片側萎縮症(ロンバーグ病)の概要.	鈴木康俊, 朝戸裕貴	形成外科学
PEPARS23:141-146, 2008.	手術手技別の切開とアプローチ 鼠径部リンパ節郭清の切開とアプローチ.	鈴木康俊, 上田和毅, 廣瀬太郎	形成外科学
武田純三, 森田茂穂編, 麻酔実践テキスト 南江堂, pp232-233, 2008.	伝達麻酔.	北島敏光, 奥田泰久	麻酔科学
慢性疼痛 27: 99-102, 2008.	薬剤師からみたオピオイド鎮痛薬の非がん性疼痛患者への処方について.	興津久美子, 岩瀬利康, 宮川潤子, 本瀬葉子, 石川昌弘, 伊藤好夫, 篠崎桂子, 上武真佐恵, 森実朋子, 越川千秋, 佐山静江, 山口重樹, 北島敏光	麻酔科学
29: 789-791, 2008.	シングルリードによるデュアルスティム法の脊髄刺激療法によって良好な疼痛管理をなし得たfailed back surgery syndromeの1症例.	手塚薫子, 金子瑞恵, 大谷太郎, 寺島哲二, 橋本智貴, 濱口眞輔, 北島敏光	麻酔科学
ペインクリニック 29: 1147-1149, 2008.	トリガーポイント注射部位に巨大血腫が発生したレックリングハウゼン氏病の1症例.	森田美則, 橋本智貴, 手塚薫子, 大谷太郎, 寺島哲二, 古川直樹, 渡辺正嗣, 濱口眞輔, 北島敏光	麻酔科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
ペインクリニック 29 : 1213-1222, 2008.	非がん性慢性疼痛患者に対するミルナシプランの効果に関する検討.	渡辺正嗣, 橋本智貴, 手塚薫子, 古川直樹, 金子瑞恵, 岩崎忠臣, 森田美則, 濱口眞輔, 北島敏光	麻酔科学
ペインクリニック 29 : 1421-1423, 2008.	治療方法が制限された腎移植後の三叉神経痛に対して三叉神経高周波熱凝固法が奏効した1症例.	船田安希, 今井裕, 山口重樹, 篠崎未緒, 濱口眞輔, 北島敏光	麻酔科学
慢性疼痛 27 : 73-77, 2008.	オピオイドおよびガバペンチンを用いて治療した後天性免疫不全症候群に併発した帯状疱疹後神経痛.	山口重樹, 石川和由, 古川直樹, 北島敏光, 鷹西敏雄	麻酔科学
慢性疼痛 27 : 79-82, 2008.	多発性骨髄腫の発症により再燃した帯状疱疹後神経痛.	山口重樹, 手塚正智, 金子瑞恵, 池田知史, 北島敏光	麻酔科学
慢性疼痛 27 : 83-88, 2008.	慢性疲労症候群および線維筋痛症が疑われた症例に対するオピオイドおよびガバペンチンの併用.	山口重樹, 橋爪義隆, 北島敏光, 佐伯吉規, 下田和孝	麻酔科学
ペインクリニック 29 : 606-613, 2008.	アセトアミノフェン.	山口重樹, 北島敏光	麻酔科学
PHARM STAGE 7 : 27-30, 2008.	慢性疼痛治療薬の有害事象とその判断.	山口重樹, 北島敏光	麻酔科学
治療 90 : 2073-2076, 2008.	非ステロイド系抗炎症薬.	北島敏光	麻酔科学
ペインクリニック 29 : 289-290, 2008.	修正型電気痙攣療法と難治性慢性疼痛の客観的評価.	濱口眞輔	麻酔科学
情報機構, 東京 : 183-191, 2008.	現場での運用～「WHO方式がん疼痛治療法」を軸にした運用～, 最新・経皮吸収剤～開発の基礎から申請のポイントまで～,	山口重樹	麻酔科学

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
慢性疼痛 27: 99-102, 2008.	薬剤師からみたオピオイド鎮痛薬の非がん性疼痛患者への処方について.	興津久美子, 岩瀬利威, 宮川潤子, 本瀬葉子, 石川昌弘, 伊藤好夫, 篠崎桂子, 上武真佐恵, 森実朋子, 越川千秋, 佐山静江, 山口重樹, 北島敏光	麻酔科学
ペインクリニック 29: 1213-1222: 2008	持続くも膜下注入による慢性疼痛治療-モルヒネからジコノタイドまで-	山口重樹, 北島敏光	麻酔科学
「PCECコースガイドブック」: pp 85-88, pp 185-191, へるす出版, 東京, 2008.	胸背部の観察. 腹部・腰部の観察. 腎疾患. 肝疾患. 意識障害に関する病院前救護の標準化委員会 (編)	小野一之	救急医学
日集中医誌 15:239-240, 2008.	甲状腺機能亢進症に伴う低カリウム性周期性四肢麻痺症例のカリウム補充療法.	小林光太郎, 根本真人, 片塩仁, 中村卓郎, 小野一之, 崎尾秀彰	救急医学
救急医学 32:1471-1477, 2008.	AASLD Position Paper: The Management of Acute Liver Failure.	草野浩治, 室久俊光, 小野一之	救急医学
日臨麻会誌 28: 956-960, 2008.	初期臨床研修医に対する超音波ガイド下中心静脈穿刺トレーニング.	徳嶺譲芳, 宮田裕史, 加藤孝澄, 松島久雄	救急医学
Medical Practice 25: 211-218, 2008.	気道確保.	松島久雄	救急医学
ペインクリニック vol. 29, No10 2008.	治療方法が制限された腎移植後の三叉神経高周波熱凝固法が奏効した1症例:	松田安希, 今井裕, 山口重樹, 篠崎未緒, 濱口眞輔, 北島敏光	口腔外科学
金芳堂 2008.	プライマリ・ケア即戦手引き	今井 裕	口腔外科学
16-17 クインテッセン出版株式会社 2008.	心筋梗塞 ピンポイントで読む チームのための有病者歯科医療	今井 裕	口腔外科学



2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
日本口腔ケア学会編 日総研出版 2008.	日本口腔ケア学会認定資格標準テキスト 問題と解説集 下巻	今井 裕	口腔外科学
Oncol Rep19:609-616, 2008.	Expression and cellular localization of TSC-22 in normal salivary glands and salivary gland tumors: implications for tumor cell differentiation.	Doi Y, Kawamata H, Ono Y, Fujimori T, Imai Y	口腔外科学
第60回栃木県歯科医学会誌 2008.	口腔癌患者において術前口腔ケアは術後抗生物質使用期間と入院期間を短縮できる	志水大地, 加藤洋史, 角田賀子, 越川久美子, 川又均, 今井 裕	口腔外科学
第60回栃木県歯科医学会誌 2008.	当科における過去10年間の口腔扁平上皮癌患者の臨床的検討	齋藤伸枝, 酒井英紀, 村本 創, 澁澤富喜子, 川瀬裕子, 川又 均, 今井 裕	口腔外科学
第60回栃木県歯科医学会 2008.	当科における閉塞型睡眠時無呼吸症候群患者に対する取り組みについて:	博多研文, 成川公貴, 朝倉節子, 泉さや香, 若林志延, 川又均, 今井 裕	口腔外科学
Asian J. Oral and Maxillofac. Surg, 20: 81-85, 2008. (コレスポонденス)	Clear cell carcinoma, not otherwise specified of oral floor: a case report.	Kakuta Y, Kawamata H, Asano K, Doi Y, Imai Y: Kakuta Y, Kawamata H, Asano K, Doi Y, Imai Y	口腔外科学
消化器内視鏡 20:419-425, 2008	経鼻内視鏡は本当に楽なのか? 極細径経口内視鏡との比較.	渡辺秀考, 渡邊菜穂美, 小倉利恵子, 西福康之, 人見玄洋, 岡本裕, 大類方巳, 中村哲也, 平石秀幸	大学病院健康管理科
Endoscopy 40supple: E44 2008.	Depressed Type Colon Cancer with Diverticulosis	Kobayashi N, Hirabayash K, Matsui T, Hirahara Y, Kurihara H, Igarashi S, Ishikawa T	放射線部
American journal of roentgenology, 191: 753-757, 2008.	Tumor staging of advanced esophageal cancer: combination of double-contrast esophagography and contrast-enhanced CT.	Yamabe Y, Kuroki Y, Ishikawa T, Miyakawa K, Kuroki S, Sekiguchi R	放射線部
臨床画像, 2:293-306, 2008.	消化管の画像診断 注腸検査.	山邊 裕一郎, 小林 望, 栗原弘義, 黒木 嘉典, 関口 隆三, 石川 勉	放射線部

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Journal of Gastroenterology and Hepatology: 23:500, 2008.	Intramucosal gastric cancer treated by endoscopic submucosal dissection.	Kobayashi N, Ishikawa T, Hirabayashi K, Fuk, Hirahara Y, Yamabe Y, Igarashi S, Sekiguchi R Gastrointestinal	放射線部
矯正医学 57: 6-8, 2008.	当院における受刑者の分娩の検討.	山崎龍王, 渡辺博, 稲葉未知世, 深澤一雄, 野口崇夫, 稲葉憲之	総合周産期母子医療センター
Pediatric Radiology 38: 344-347, 2008.	MR imaging appearance of laryngeal atresia (congenital high airway obstruction syndrome): unique course in a fetus.	Kuwashima S, Kitajima K, Kaji Y, Watanabe H, Watabe Y, Suzumura H	総合周産期母子医療センター
臨床婦人科産科 62: 393-97, 2008.	周産期管理[妊娠管理]-絨毛膜性双胎一児死亡の取り扱いは?	渡辺博	総合周産期母子医療センター
JIM 18: 238-40, 2008.	[あなたの患者が妊娠したら-内科疾患患者の妊娠相談]C型肝炎ウイルスキャリアの妊娠	渡辺博, 西川正能, 根岸正実, 稲葉憲之	総合周産期母子医療センター
「講義録 小児科学」. (佐治勉, 有阪治, 大澤真木子, 近藤直美, 竹村司編). pp527-529. メジカルビュー社. 東京, 2008.	Ⅲ. 小児の疾患を深く学ぼう L. 消化器疾患 口腔・咽頭疾患.	平尾準一	とちぎ子ども医療センター
小児アレルギー学会誌 22: 795-802, 2008.	栃木県における小児気管支喘息治療の実態調査 2002年と2006年の比較.	吉原重美, 市橋光, 桃井真里子, 江口光興, 井原正博, 菅野訓子, 平尾準一, 有阪治	とちぎ子ども医療センター
小児臨61: 1159-1162, 2008.	労作性熱中症に伴って肝障害を認めた3例.	西田光宏, 萩澤進, 平尾準一, 杉田憲一, 有阪治	とちぎ子ども医療センター
(日本乳腺甲状腺超音波診断学会編), 1-140, 2008.	乳房超音波診断ガイドライン改訂第2版.	高田悦雄	大学病院超音波センター
「実践 乳房超音波診断」(植野映編) 第1章. 12-13, 2007.	診断装置の設定.	高田悦雄	大学病院超音波センター

## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
(日本乳腺甲状腺超音波診断会議編), 1-140, 2008.	乳房超音波診断ガイドライン改訂第2版.	高田悦雄	大学病院 超音波センター
(竹原靖明編), 第3章43-48, 医学書院 2008.	USスクリーニングの実施条件, 「USスクリーニング」.	竹原靖明, 高田悦雄, 安田秀光	大学病院 超音波センター
電子情報通信学会論文誌 91: 1923-1926, 2008.	全乳房超音波画像における腫瘍像自動検出システムのための左右乳房画像の比較による偽陽性削除法.	池戸祐司, 福岡大輔, 原武史, 藤田広志, 高田悦雄, 遠藤登喜子, 森田孝子	大学病院 超音波センター
Digital Mammography, Lecture Notes in Computer Science 5116: 188-195, 2008.	Computerized classification of mammary gland patterns in whole breast ultrasound images.	Ikedo Y, Morita T, Fukuoka D, Hara T, Fujita H, Takada E, Endo T	大学病院 超音波センター
Digital Mammography, Lecture Notes in Computer Science 5116, 433-439, 2008.	Classification of benign and malignant masses in ultrasound breast image based on geometric and echo features,	Lee G, Fukuoka D, Ikedo Y, Hara T, Fujita H, Takada E, Endo T, Morita T	大学病院 超音波センター
Digital Mammography, Lecture Notes in Computer Science 5116, 455-462, 2008.	Development of whole breast ultrasound viewer and automated mass detection system,	Hara T, Fukuoka D, Ikedo Y, Takada E, Fujita H, Endo T, Morita T	大学病院超音波センター
中外医学社, pp39-45, 2008.	4. 造影PET-CT総論 村上康二編, PET-CT 画像診断マニュアル	村上康二	大学病院 PETセンター
中外医学社, pp181-189, 2008.	7. 腹部、骨盤部 C-1. 食道 村上康二編, PET-CT 画像診断マニュアル	村上康二	大学病院 PETセンター
中外医学社, pp190-200, 2008.	7. 腹部、骨盤部 C-2. 大腸 村上康二編, PET-CT 画像診断マニュアル	村上康二	大学病院 PETセンター
デジタルメディスン社, pp19-23, 2008.	クリニカルPET/CTの新たな応用 PET/CT Book, デジタルメディスン編	村上康二	大学病院 PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp74-76, 2008.	$^{18}\text{F}$ -FDG PETは孤立性肺結節の鑑別診断に有用か. $^{18}\text{F}$ -FDG PET/CTは孤立性肺結節の鑑別診断に有用か.	村上康二	大学病院 PETセンター
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp77-79, 2008.	$^{18}\text{F}$ -FDG PETは肺癌の病期診断・再発診断に有用か.	村上康二	大学病院 PETセンター
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp80-85, 2008.	$^{18}\text{F}$ -FDG PETによる肺癌縦隔リンパ節転移の診断精度は胸部CTより優れているか.	村上康二	大学病院 PETセンター
科学的根拠に基づく呼吸器核医学診断(診療)ガイドライン 日本核医学会 分科会 呼吸器核医学研究会 呼吸器核医学診断ガイドライン作成委員会 編 発行, pp86-87, 2008.	$^{18}\text{F}$ -FDG PETは肺癌放射線治療計画に役立つか.	村上康二	大学病院 PETセンター
Annals of Nuclear Medicine 22: 103-109, 2008.	Performance of FDG-PET/CT in the diagnosis of recurrent endometrial cancer.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Hagiwara S, Fukasawa I, Inaba N, Kaji Y, Sugimura K	大学病院 PETセンター
Hepatogastroenterology 55: 398-402, 2008.	Positron emission tomography for preoperative staging in patients with locally advanced or metastatic colorectal adenocarcinoma in lymph node metastasis.	Kosugi C, Saito N, Murakami K, Ochiai A, Koda K, Ono M, Sugito M, Ito M, Oda K, Seike K, Mivazaki M	大学病院 PETセンター
Eur J Nucl Med Mol Imaging 35: 1912-1920, 2008.	Diagnostic accuracy of integrated FDG-PET/contrast-enhanced CT in ovarian cancer: comparison with enhanced CT.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Domeki Y, Kaji Y, Fukasawa I, Inaba N, Suganuma N, Sugimura K	大学病院 PETセンター
AJR 190: 1652-1658, 2008.	Accuracy of $^{18}\text{F}$ -FDG PET/CT in detecting pelvic and praaortic lymph node metastasis in patients with endometrial Cancer.	Kitajima K, Murakami K, Yamasaki E, Fukasawa I, Inaba N, Kaji Y, Sugimura K	大学病院 PETセンター
Neuropsychiatry Clin Neurosci 20: 302-308, 2008.	Hippocampal and amygdalar volumes in breast cancer survivors with posttraumatic stress disorder. J	Hara E, Matsuoka Y, Hakamata Y, Nagamine M, Inagaki M, Imoto S, Murakami K, Kim Y, Uchitomi Y	大学病院 PETセンター
Clinical Radiology 63: 1213-1227, 2008.	Dual time point FDG-PET/CT imaging. Potential tool for diagnosis of breast cancer.	Zytoon AA, Murakami K, M. R. El-Kholy, E. El-Shorbagy	大学病院 PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Breast Cancer 15: 224-230, 2008.	PET/CT supports breast cancer diagnosis and treatment.	Hayashi M, Murakami K, Oyama T, Domeki Y, Hagiwara S, Katsumata D, Sunagawa M	大学病院 PETセンター
World Journal of Surgical Oncology 6: 2008.	Middle bile duct cancer with portal vein tumor thrombus.	Shimoda M, Iso Y, Tomita S, Fujimori T, Murakami K, Sawada T, Kubota K	大学病院 PETセンター
Pharma Medica 26: 45-50, 2008.	膵炎・膵癌 up to date: 画像診断; PET.	村上康二	大学病院 PETセンター
呼吸器科 13: 147-153, 2008.	肺癌診断-最近の動向- 肺癌診療におけるFDG-PET (PET/CT) の役割.	北島一宏, 村上康二, 山崎英玲奈, 百目木泰, 楯靖	大学病院 PETセンター
画像診断 28: 322-331, 2008.	乳癌におけるFDG-PET (PET/CT) の有用性.	北島一宏, 村上康二, 山崎英玲奈, 楯靖, 百目木泰, 林光弘, 砂川正勝	大学病院 PETセンター
呼吸器科 13: 147-153, 2008.	特集-肺がん診断-最近の動向 肺癌診療におけるFDG-PET (PET/CT) の役割.	北島一宏, 村上康二, 山崎英玲奈, 百目木泰, 楯靖	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 78-80, 2008	胆・膵画像疾患のキーワード<第3回> Capsule -like rim (自己免疫性膵炎) .	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 172-173, 2008	胆・膵画像疾患のキーワード<第4回> Penetrating duct sign.	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 260-261, 2008	胆・膵画像診断のキーワード Central dot sign <第5回> (胆嚢腺筋症)	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
早期大腸癌12: 161-166, 2008.	CT Colonography (4) PET-CT Colonography とは -原理、処理された画像の種類-	村上康二, 北島一宏, 山崎英玲奈, 百目木泰	大学病院 PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
胆と膵 29: 360-361, 2008	胆・膵画像診断のキーワード Central dot sign <第6回> (カロリー病)	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胃と腸 43: 961-968, 2008	大腸の新しい画像診断 PET (PET/CT) による大腸腫瘍性病変の診断	村上康二	大学病院 PETセンター
PETの意義23 1005-1012, 2008	食道疾患の臨床 update 第6章食道癌 7.	百目木泰, 村上康二, 山崎英玲奈, 北島一宏, 岸本グスタボ, 宮地和人, 佐々木欣郎, 砂川正勝	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 452-455, 2008.	胆・膵画像診断のキーワード<第7回> Diffusion weighted image (拡散強調画像).	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29: 564-566, 2008.	胆・膵画像診断のキーワード<第8回> Fat Suppression MR Imaging (脂肪抑制画像).	金親克彦, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵 29 : 658-660, 2008	胆・膵画像診断のキーワード<第9回> 3 Tesla MRI (テスラ)	北島一宏, 村上康二	大学病院 PETセンター
胆と膵29 : 772-775, 2008	胆・膵画像診断のキーワード<第10回> Gd-EOB-DTPA (肝胆道用MRI造影剤).	金親克彦, 村上康二	大学病院 PETセンター
成人病と生活習慣病 38: 1085-1089, 2008	特集/ここまでわかる消化管疾患の画像診断 PET-CT colonography.	村上康二, 北島一宏, 山崎英玲奈, 松浦晃	大学病院 PETセンター
気管支学 30:347-353, 2008.	ミニ特集 肺癌の縦隔リンパ節転移診断-画像と内視鏡診断「PET-CT」.	村上康二	大学病院 PETセンター
大腸癌Frontier 1: 269-273, 2008.	大腸癌遠隔転移の治療方針: PET/CTによる画像診断.	村上康二, 山崎英玲奈, 北島一宏, 松浦晃	大学病院 PETセンター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
田中聡, 他編, エサップ社, 東京, pp50-53, 2008.	両側前頭葉を広くに浸潤する石灰化を伴う腫瘍 脳腫瘍実践ケーススタディ第1巻.	植木敬介	大学病院 腫瘍センター
Histopathology 52: 183-193, 2008.	Pleomorphic xanthoastrocytoma: a comparative pathological study between conventional and anaplastic types.	Hirose T, Ishizawa K, Sugiyama K, Kageji T, Ueki K, Kannuki S:	大学病院 腫瘍センター
Neurosurgery 63(Suppl 1): ONS188-190, 2008.	Newly designed ergonomic surgical binocular telescope with angulated optic axis.	Kim P, Joujiki M, Suzuki M, Ueki K, Amano Y:	大学病院 腫瘍センター
35: 911-913, 2008.	グリオーマの遺伝子解析と遺伝子診断 癌と化学療法	植木敬介:	大学病院 腫瘍センター
田中聡, 他編, エサップ社, 東京, pp50-53, 2008.	両側前頭葉を広くに浸潤する石灰化を伴う腫瘍 脳腫瘍実践ケーススタディ第1巻.	植木敬介	大学病院 腫瘍センター
Histopathology 52: 183-193, 2008	Pleomorphic xanthoastrocytoma: a comparative pathological study between conventional and anaplastic types.	Hirose T, Ishizawa K, Sugiyama K, Kageji T, Ueki K, Kannuki S	大学病院 腫瘍センター
Neurosurgery 63(Suppl 1): ONS188-190, 2008.	Newly designed ergonomic surgical binocular telescope with angulated optic axis	Kim P, Joujiki M, Suzuki M, Ueki K, Amano Y	大学病院 腫瘍センター
Pathol Int 58: 84-88, 2008.	LKB1 protein expression in neuroendocrine tumors of the lung.	Randa MSA, Hiroshima K, Iyoda A, Hoshi K, Honma K, Kuroki M, Kokubo T, Fujisawa T, Mivagi Y.	大学病院 腫瘍センター
社団法人日本内科学会専門医部会編, 社団法人日本内科学会, 東京: pp4, pp125, 2008.	2. 消化器 問題3. 生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
社団法人日本内科学会専門医部会編, 社団法人日本内科学会, 東京: pp5, pp126, 2008.	2. 消化器 . 問題4. 生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説	中村哲也	大学病院 医療情報センター

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
社団法人日本内科学会専門医部会編, 社団法人日本内科学会, 東京: pp6, pp129, 2008.	2. 消化器 問題8. 生涯教育のためのセルフトレーニング問題と解説.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp33-34, 2008	3. 十二指腸の解剖. III. 上部消化管の解剖. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp270-274, 2008.	1. 十二指腸の観察. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp275-287, 2008.	2. 十二指腸潰瘍. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp288-293, 2008.	3. 十二指腸炎. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp294-307, 2008.	4. その他の十二指腸良性病変. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版	中村哲也	大学病院 医療情報センター
長廻絃編, 文光堂, 東京: pp308-309, 2008.	5. 十二指腸憩室. VI. 十二指腸. 消化管内視鏡診断テキスト① 食道・胃・十二指腸 第3版.	中村哲也	大学病院 医療情報センター
Laser Therapy 17: 159-166. 2008.	Safety guidelines for performing photodynamic therapy (PDT) on digestive tract.	Nakamura T, Narahara H, Matsui H, Tanaka T, Nishiwaki Y, Muto M, Shirakawa K	大学病院 医療情報センター
Proceedings of 11th World Congress of the International Society for the Disease of the Esophagus, Budapest (Hungary), Sept. 10-13, 2008.	Esophageal capsule endoscopy versus magnifying endoscopy for detecting esophageal lesions.	Nakamura T, Yamagishi H, Oinuma T, Masuyama H, Terano A	大学病院 医療情報センター
J. Synchrotron Rad. 15: 535-537, 2008.	SaxsMDView: A three-dimensional graphics program for displaying force vectors.	Kojima M, Kezuka Y, Nonaka T, Hiragi Y, Watanabe T, Kimura K, Takahashi K, Yanagi S. Kihara	大学病院 医療情報センター



## 2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
Biochim Biophys Acta. 1784: 834-842, 2008.	Dynamics of oligomer formation by denatured carbonic anhydrase II.	Prokhorov DA, Timchenko AA, Uversky VN, Khristoforov VS, Kihara H, Kimura K, Kutysenko VP	大学病院 医療情報センター
Mumps, J. MTA-J 24: 21- 25, 2008.	医事システムと連動した POS レジの開発.	土屋喬義, 田中千 恵子, 木村一元	大学病院 医療情報センター
Photon Factory Activity Report 25: 246, 2008 (Web version)	Comparative analysis of solution structure of two isoforms of rabbit elongation factor eEF1-A by SAXS technique.	Timchenko A, Serdyuk I, Negrutskii B, Novosylina A, Deryusheca E, Prituzhalov E, Kimura K, Kihara H	大学病院 医療情報センター

計 6 2 3

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること（当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る）。

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 北 島 敏 光		
管理担当者氏名	庶務課長 影 山 善 久	医事保険課長 渡 邊 栄	
	診療記録管理部 中 野 雄 司	医療安全対策課 五 月 女 弘 実	
	連携医療部 麻 生 保		

		保管場所	分類方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		診療記録管理部 薬剤部 手術部	カルテ、エックス線写真とも入院・外来を含む1患者1ファイル方式として管理している
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	庶務課	
	高度の医療の提供の実績	医事保険課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事保険課	
	高度の医療の研修の実績	庶務課	
	閲覧実績	庶務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	連携医療部 医事保険課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事保険課 薬剤部	
確規 保則 の第 9 条 の 2 3 及 び 第 1 条 の 1 1 各 号 に 掲 げ る 体 制	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全対策課	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染防止対策課	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全対策課	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全対策課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全対策課	
医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全対策課		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第1条の11各号に掲げる体制確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染防止対策課
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染防止対策課
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染防止対策課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染防止対策課
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	経理課
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	経理課
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	経理課
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	経理課		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。

(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	事務部長 中 田 英 夫
閲覧担当者氏名	庶務課長 影 山 善 久
閲覧の求めに応じる場所	事務部

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	47.3 %	算定期間	平成20年4月1日～平成21年3月31日
算出根拠	A: 紹介患者の数	19,379 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,622 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,574 人	
	D: 初診の患者の数	52,477 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

## 規程第9条の23及び第1条の11各号に掲げる体制の確保状況

①専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	㊥ (1名)・無
②専任の院内感染対策を行う者の配置状況	㊥ (1名)・無
③医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	㊥・無
<p>・所属職員：専任（5）名〈専任安全管理者1名含む〉 兼任（2）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>組織横断的に院内の安全管理を担う部門として医療安全管理部医療安全対策課を置き、次に掲げる業務を遂行している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療安全管理委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会、リスクマネジャー小委員会及び医療事故対策委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保存、その他医療安全管理委員会等の庶務に関すること。</li> <li>2) 医療事故防止対策マニュアルの改訂についての企画、原案の作成、各種委員会への提案及び制定に関すること。</li> <li>3) 医療安全に関する院内パトロールの実施に関すること。</li> <li>4) インシデント・アクシデント情報の収集、分析と改善策立案に関すること。</li> <li>5) インシデント・アクシデント情報に関する改善策の依頼、助言、実施及び評価に関すること。</li> <li>6) 医療安全対策研修会の開催（講習内容・講師選定・運営・まとめ）に関すること。</li> <li>7) 厚生労働省が推進する医療安全対策ネットワーク事業に伴う、インシデント・アクシデント情報の報告〔報告先：(財)日本医療機能評価機構〕に関すること。</li> <li>8) 医療安全対策院内広報誌（医療安全対策課広報・毎月1回発行）の発行に関すること。</li> <li>9) その他、医療安全対策に係る連絡調整に関すること。</li> </ol>	
④当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	㊥・無
⑤医療に係る安全管理のための指針の整備状況	㊥・無
<p>・指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 安全管理に関する基本的考え方と長期的目標</li> </ol> <p>【基本方針】</p> <p>厚生労働省の基本方針に沿って本院においてもこれを基本方針として取り組みを進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 安全管理のための病院指針の整備</li> <li>② 安全管理のための医療事故等院内報告制度の整備</li> <li>③ 安全管理のための委員会の定例開催</li> <li>④ 安全管理のための職員研修の開催の義務化</li> </ol> <p>【長期的目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 患者様最優先の医療を徹底する。</li> <li>② 患者様の満足度を高める医療を行う。</li> <li>③ 医療従事者は、常に「危機意識」を持ち業務にあたる。</li> <li>④ 医療行為においては、確認・再確認・相互確認等を徹底する。</li> <li>⑤ 患者様との円滑なコミュニケーションとインフォームドコンセントに配慮する。</li> </ol>	

- ⑥ 記録は正確かつ丁寧に記載し、チェックを行う。
- ⑦ 情報の共有化を図る。
- ⑧ 自己の健康管理と職場のチームワークのもとにチーム医療を遂行する。
- ⑨ 医療事故防止のための教育・研修システムを実行する。

また、この他に病院の理念を下記のとおり定めている。

- ① 高度で良質な医療の提供
- ② 医療倫理の徹底
- ③ 医療の進歩への貢献
- ④ 良質な医療人の育成
- ⑤ 連携医療の構築

## 2. 医療安全管理に関する各種委員会・組織等の活動と改善の方策

### ① 医療安全管理委員会

獨協医科大学病院の医療事故を防止し、安全かつ適切な医療の提供体制を確立するための委員会の1つである。委員会は、病院長の諮問に応じ所掌業務について調査審議し、経過又は結果を病院長に報告する他、所掌業務について病院長に建議する。委員会は定例的に毎月1回とし、随時必要に応じて開催する。

### ② 医療事故対策委員会

病院長を委員長とした委員会で、大学病院運営委員会常任委員会の委員をもって構成する。委員会は発生した医療事故の報告を受け、事故の対策にあたる。

### ③ リスクマネジャーの配置

医療安全管理委員会は、病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討し決定する組織であるが、これとは別に、実際にそれぞれの医療現場で事故防止の取り組みを行う体制を整備するため、その中心的な役割を担う教職員として、「リスクマネジャー」を任命（79名）しており、インシデント事例の報告内容の把握、検討等を行い、医療事故の防止の任にあたっている。

### ④ 医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会

医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会は、各部門と医療安全管理委員会とを結ぶ役割を担うものであり、両者の密接な連絡を図ること、さらに医療事故防止対策を実効あるものとするために、医療安全管理委員会の下部組織としてリスクマネジャー委員会を設置している。委員会は、医療安全管理委員会の方針に添って事故の分析や安全対策の具体策について調査検討する。

なお、事故に繋がりやすい項目については、リスクマネジャー小委員会（薬剤、誤認防止、事例分析、転倒・転落、インフォームドコンセント、職員の安全管理、ルート管理、深部静脈血栓症）に分かれ、発生原因の分析・改善策の立案及び改善策実施状況の検証を行っている。

### ⑤ 病院診療部長会議、病院連絡会

病院診療部長会議、病院連絡会等の会議を通じて、医療安全管理委員会、医療事故対策委員会、医療安全管理委員会リスクマネジャー委員会等からの事項を周知させている。

## 3. アクシデント・インシデント報告について

医療事故（＝アクシデント）は、医療が行われる場所で医療の全過程で発生する全ての人身事故を包含する言葉として使用し、医療従事者に「過失がない」場合と「過失がある」場合を問わない。このような場合には、速やかにアクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。しかし「過失がある」場合は、これを分けて「医療過誤」と称する。例えば、医療の過程において医療従事者が

当然払うべき業務上の注意義務を怠りこれによって患者に障害を及ぼした場合をいう。これについては、アクシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「アクシデント報告画面」を用いた報告）を行うとともに、「問題（又は問題となりうる）事例届（規程別紙様式2）」を提出することとしている。

また、インシデントについては、日常診療の現場で、“ヒヤリ”としたり“ハッ”とした経験について、インシデント報告（インシデント・アクシデント報告分析支援システム「インシデント報告画面」を用いた報告）を行うこととしている。

なお、インシデント報告に当たっては、当該報告をしたことを理由に不利益となる処分は行わないこととしている。

#### 4. 医療安全の管理のための職員研修に関する基本方針

医療安全対策の取り組みを進める上で、教職員一人ひとりが安全に対する意識を高め、対応能力の向上を図ることが重要であることを踏まえて、教職員の教育・研修を行っている。職種別、部署別に医療安全対策に対する検討、又は研修会を随時行う他、全教職員を対象とする研修会を年2～4回行い、医療事故防止に対する意識の高揚を図ることとしている。

#### 5. 医療事故（医療過誤）発生時の対応

医療事故が発生した場合、事故かニアミスか、また、事態が病院側の過誤に起因するのかそうではないのかとの判断は極めて重要なことではあるが、まず、患者サイドに立ち当院として対応すべき基本となることを明記した。従って、本対応は主として相当に重大な事故が発生した場合を念頭に置きつつ、事故かどうか判然としないような場合も視野に入れた内容としている。

#### 6. 安全管理体制についての情報開示について

病院の安全管理体制は患者にとっても重要な関心事項であることを考慮して、秘密保護が必要な情報を除き、ホームページにて情報開示している。

### ⑥医療に係る安全管理のための委員会の開催状況

平成20年度

年 1 2 回

#### ・活動の主な内容

##### <所掌業務>

- (1) 医療安全対策の検討及び研究に関すること
- (2) 医療事故の分析及び再発防止策の検討に関すること
- (3) 医療安全対策のための職員に対する指示に関すること
- (4) 医療安全対策のために行う提言に関すること
- (5) 医療事故発生防止のための啓発、教育、広報及び出版に関すること
- (6) その他、医療安全対策に関すること

##### <具体的活動内容>

#### 1. 平成20年4月28日開催

- ① 3月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ② 平成20年度医療安全管理委員会委員の確認
- ③ 平成20年度リスクマネジャーの確認
- ④ 平成20年度第1回医療安全対策講習会実施結果報告

#### 2. 平成20年5月19日開催

- ① 4月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ② 医療安全対策の実施事例報告について
- ③ 平成20年度第2回医療安全対策講習会実施結果報告
- ④ 平成20年度第1回リスクマネジャー委員会の実施について
- ⑤ 医療安全対策実技講習会「人工呼吸器操作訓練」の実施について

3. 平成20年6月23日開催

- ①5月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②ハイリスク領域における手術実施手順書の作成に伴う情報提供依頼について
- ③平成20年度第1回リスクマネージャー委員会実施結果報告
- ④インシデント・アクシデント影響度レベル（基準）について
- ⑤採血用穿刺器具の取り扱いについて
- ⑥適正な点滴薬管理の徹底について

4. 平成20年7月28日開催

- ①6月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②安全対策の実施事例報告について
- ③平成20年度第5回医療安全対策講習会実施結果報告
- ④平成20年度第6回医療安全対策講習会の実施について
- ⑤患者様からの相談・苦情の対応について
- ⑥医療安全対策に係る情報をホームページに掲載することについて
- ⑦「指差し・呼称確認」に関する宣言ポスターについて
- ⑧患者安全確保のための手順書の確認について
- ⑨造影剤使用についての説明書及び承諾書の変更について

5. 平成20年8月25日開催

- ①7月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②救急カート標準配置品一覧の確認について
- ③「アレルギー薬チェック機能（操作方法）」の周知徹底について
- ④平成20年度医療監視の実施について
- ⑤医薬品の安全使用のための業務手順書の改正
- ⑥異状死の届出を行った事例における対応方法について（検証）
- ⑦医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロールの実施について

6. 平成20年9月24日開催

- ①8月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全管理委員会メンバーによる安全パトロールの実施結果報告
- ③平成20年度医療監視実施結果報告について
- ④転倒・転落 RM 小委員会からの要望について
- ⑤入院患者の誤認防止策について
- ⑥医療安全対策講習会参加者への手当て等について

7. 平成20年10月27日開催

- ①9月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②インシデント事例における改善策について
- ③ポケット版マニュアルの改正について
- ④インシデント・アクシデント報告件数の分析について
- ⑤中心静脈カテーテル挿入に関する認定医制度について

8. 平成20年11月26日開催

- ①10月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全対策ビデオ講習会実施結果報告について
- ③私立医科大学附属病院間における相互チェックの実施について
- ④平成20年度医療安全推進週間の取り組みについて
- ⑤輸血部からの要望について



- ⑥医療安全対策講習会の実施について（PETセンターからの要請）
- ⑦リスクマネジャー小委員会からの要望について  
（インフォームド・コンセントRM小委員会、誤認防止RM小委員会）

9. 平成20年12月24日開催

- ①11月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②アクシデント事例における改善策について
- ③平成20年度第8回医療安全対策講習会実施結果報告について
- ④医療安全対策講習会の実施について（放射線部からの要望）
- ⑤薬剤RM小委員会からの要望について
- ⑥医療安全全国共同行動「いのちをまもるパートナーズ」について

10. 平成21年1月26日開催

- ①12月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②麻薬鎮痛剤「レミフェンタニル」の適正使用について
- ③平成20年度医療安全対策講習会出席状況（上半期）の通知について
- ④私立医科大学相互チェック実施結果報告について
- ⑤RM小委員会活動内容報告会の実施について
- ⑥アクシデント事例における改善策について
- ⑦リスクマネジャー小委員会からの要望

11. 平成21年2月23日開催

- ①1月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②医療安全対策講習会実施結果報告について〔第9回〕〔第10回〕
- ③平成20年度第11回医療安全対策講習会の実施について
- ④ホームページの更新について
- ⑤「化学療法における血管外漏出の対応」について
- ⑥行動制限（抑制・拘束）に係る同意書について

12. 平成21年3月23日開催

- ①2月分インシデント・アクシデント事例の報告と内容分析、検討
- ②平成20年度第11回医療安全対策講習会実施結果報告について
- ③平成21年度医療安全対策講習会実施計画書（案）の確認について

⑦医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成20年度  
年 12 回

・研修の主な内容

○オリエンテーション（対象：平成20年度新入看護師）

開催日：平成20年4月1日、2日、11日 午後2時から3時

形態：講習会

講師：医療安全対策課 安全管理者 渡辺 いつ子

演題：「医療安全に関する当院での現状」

内容：当院の医療安全体制について、解説がなされた。

参加者：187名

○オリエンテーション（対象：平成20年度臨床研修医）

開催日：平成20年4月17日（木）午前9時から午後4時30分

形態：実技講習会

講師：テルモ株式会社 社員

演 題：「模擬腕を使用した静脈穿刺・採血（体験学習）」

「輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方（体験学習）」

内 容：平成20年度臨床研修医が模擬腕を使用して静脈穿刺・採血、輸液ポンプ、シリンジポンプの安全な使い方を体験した。

参加者：49名

○第1回 開催日：平成20年4月17日（木）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：テルモ株式会社 学術情報部 渡辺 愛弓 先生

演 題：「医療事故防止への取り組み」

内 容：「医療機関を取り巻く状況」、「リスクマネジメントに係る用語」、「原因思考の考え方で事故防止に向けての取り組み方法」について解説がなされた。

参加者：599名

○第2回 開催日：平成20年5月9日（金）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：東京女子医科大学病院 病院長 永井 厚志 先生

演 題：「心臓手術事故から学んだこと」

内 容：当該病院が抱えていた問題点や苦悩、また医療事故を教訓にどのような医療安全対策を推進してきたのかについて、解説がなされた。

参加者：739名

○第3回 開催日：平成20年6月13日（金）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：医療安全対策課 安全管理者 渡辺 いつ子

演 題：「危険予知トレーニング（KYT）」

内 容：例題に対して危険因子の洗い出し及び対策について、解説がなされた。

参加者：24名

○第4回 開催日：平成20年6月19日（木）午後5時から7時

形 態：実技講習会

講 師：医療機器安全管理責任者 崎尾 秀彰 先生 並びに臨床工学技士14名

演 題：「人工呼吸器操作訓練」

内 容：人工呼吸器の安全な操作方法について、実技を通して解説がなされた。

参加者：61名

○第5回 開催日：平成20年7月1日（火）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：①医薬品安全管理者 越川 千秋

②自治医科大学 メディカルシミュレーション センター長

医療安全学 教授 河野 龍太郎 先生

演 題：①「健康被害救済制度について」

②「ヒューマンファクター工学に基づくヒューマンエラー低減対策と活動」

内 容：ヒューマンエラー発生メカニズムや事故の構造を理解し、より効果的な改善策を立案するための手法について、解説がなされた。

参加者：584名

○第6回 開催日：平成20年10月29日（水）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：①医薬品安全管理責任者 越川 千秋

②東京大学医科学研究所 探索医療ヒューマンネットワークシステム部門  
准教授 上 昌広 先生

演 題：①「ディロテップMTパッチの適正使用」  
②「医療安全におけるコンセンサスの形成」

内 容：医療改革の現状と共に医療安全対策に関する意識向上について、解説がなされた。

参加者：548名

○第7回 開催日：平成20年11月20日（木）午後5時から6時30分

形 態：ビデオ講習会

講 師：東京女子医科大学病院 病院長 永井 厚志 先生

演 題：「心臓手術事故から学んだこと」

内 容：第2回のビデオ講習会を開催した。

参加者：187名

○第8回 開催日：平成20年12月1日（月）午後5時30分から7時

形 態：講習会

講 師：日本医師会総合政策研究機構 主任研究員 弁護士 水谷 渉 先生

演 題：「医療事故・医療訴訟について」

内 容：実例をもとに医療事故・医療訴訟について、解説がなされた。

参加者：271名

○第9回 開催日：平成21年1月29日（木）午後5時から6時30分

形 態：講習会

講 師：医療安全対策課 参事 鈴木 利教

演 題：「当院にて発生した暴力事案への対応結果及び提言」

内 容：当院における暴力事案をもとに、対応及び提言について解説がなされた。

参加者：386名

○第10回 開催日：平成21年2月13日（金）午後5時30分から7時

形 態：講習会 講 師：作家 海堂 尊 先生

演 題：「死因不明社会としないために Ai(Autopsy imaging)とは何か」

内 容：遺体をCTやMRIにかけて画像処理で死因を解明する「オートプシー・イメージング(Ai)について、解説がなされた。

参加者：359名

○第11回 開催日：平成21年3月10日（火）午後5時から6時30分

形 態：研修・発表会

講 師：リスクマネージャー小委員会

演 題：「RM小委員会における活動内容報告会」

内 容：各リスクマネージャー小委員会が年間活動内容及び検証結果について発表した。

参加者：95名

○第12回 開催日：平成21年3月13日（金）午後5時から7時

形 態：講習会

講 師：①獨協医科大学 RIセンター 放射線管理部 主任 高橋 克彦

②兵庫医科大学 放射線科 准教授 石蔵 礼一 先生

③兵庫医科大学 救急災害医学 教授 丸川 征四郎 先生

演 題：①「地震だ！試薬瓶、棚、冷蔵庫・・・どうする？RI施設における対策紹介」

②「大規模災害の経験と今後の課題：中央部門としての放射線部の立場から」

③「JR 福知山線列車事故に学ぶ大規模災害医療：

基幹病院としての負傷者受け入れ体制」

内 容：大規模災害における対策、基幹病院のありかたについて、解説がなされた。

参加者：264名

⑧医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

・医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無)

・その他の改善のための方策の主な内容：

1) 外来採血室において他患者の検体容器と取り違えて採血を実施し、血液型を誤って発行した事例について、改善策として今後検体容器が2つになった場合には、1つの箱に合わせて入れるのではなく2段に重ねることとした。また、受付時の確認、採血時の確認については、ダブルチェックすることを改めて徹底した。

(平成20年5月委員会)

2) 島根県及び埼玉県内の医療機関において、複数の患者に使用しないことが明示されている採血用穿刺器具(ディスポーザブルタイプでないもの)を複数の患者に使用し、感染症の発生が疑われる事例が発生した旨の説明があった。医療安全管理委員会では、本事例の重大性を鑑み、採血用穿刺器具の適正な取扱い(今後穿刺針、採血用穿刺器具を使用する際には、器具全体がディスポーザブルタイプであるものを使用すること)について、改めて各部門・部署へ依頼した旨の報告があった。

(平成20年6月委員会)

3) 三重県にある某整形外科医院において、作り置きした点滴薬に細菌(セラチア菌)が混入し、点滴を受けた複数の患者様が腹痛などを訴え、うち2名が死亡するという事例が発生した。これを踏まえ、適正な点滴薬管理(今後点滴薬を準備する際には、絶対に作り置きは行わず、使用直前に準備すること)について審議した結果、委員より点滴薬を使用直前に準備するという基準が不明確であり、今後適正な点滴薬管理方法を感染防止対策課と協議した上で、改めて各部門・部署へ依頼していくこととなった。

(平成20年6月委員会)

4) IVH ルートが一部破損したため薬液と血液が逆流した事例(①背景要因：普段からルートが長く床を引きずっていた。②点滴台のキャスターがルートの上を登っていた。)について、改善策として今後適切な長さのルートを使用していくこととした。

(平成20年7月委員会)

5) 薬剤部にてムコダインドライシロップ調剤瓶の残量が少なくなったため、職種経験年数1・2年目の職員が確認しながら補充を行ったところ、注意不足からムコダインドライシロップ調剤瓶にムコダイン細粒を充填した事例について、今後このようなことが起こらないよう当該部署にて下記改善策を講じた旨の報告があった。

【改善策】

①細粒の取扱い中止の検討を行った。

②経験年数の少ない者同士での補充作業は行わない。

③補充作業の手順厳守を徹底する。

④遮光の必要のないものは褐色瓶から透明瓶へ変更する。

⑤入院と外来の瓶色・ラベル表示の統一を図る。

(平成20年7月委員会)

6) 腹部大動脈瘤術後の患者様に対し疼痛管理目的で持続硬膜外麻酔を施行していた際、カテーテルとポンプの接続部が外れた事例について、関連診療科と協議した結果、改善策として今後すべての持続硬膜外麻酔用カテーテルをロック式(三孔式ユニセット)に変更することとなった。  
(平成20年7月委員会)

7) 患者様に退院処方をする際、医師が禁忌薬剤(アレルギー薬)をオーダーしてしまい、その後アレルギーに気付き処方を中止したものの、看護師が確認不足から中止の指示を見落とし、退院時に患者様へアレルギーのある退院処方薬を渡したという事例が報告された。

本件については、根本的な問題点として確認不足などの要因が挙げられるが、電子カルテにアレルギー対象薬品のオーダーを未然に防ぐ補助機能があるにも関わらず、病名やプロファイルなどの情報をマスタから選択・登録せずに、安易にワープロ入力していたためチェック機能が働かなかったことも一因であることが判明した旨の説明があった。

これらを踏まえ、再発防止策について情報処理室と協議した結果、アレルギー薬チェック機能については、既に導入されていることが確認できたことから、関係部署に周知徹底文書を配布し、注意喚起を行った旨の報告があり、了承された。

(平成20年8月委員会)

8) 転倒・転落事故については、年間739件が院内で発生しており、事故が原因で骨折や頭部外傷を生じるケースも多く報告されている。分析の結果、発生の一つの要因として、教職員の観察不足や患者様への説明不足が挙げられる。

これらを踏まえ、事故を未然に防止するため、教職員並びに患者様への啓蒙活動を積極的に実施し、転倒・転落の危険性を改めて確認させることが肝要であるとの考えに至った旨の説明があった。

#### 【転倒・転落事故防止に向けた啓蒙活動】

①現在試験的に運用している啓蒙ポスター・リーフレットを病院全部署にて活用すること。

②安全シールを作成した上で、転倒・転落が発生しやすい場所に貼付すること。

③転倒・転落事故防止のための配付グッズを作成し、患者様にお配りする。

上記①～③について検討した結果、転倒・転落事故防止に向けた啓蒙活動を実行していくことが了承された。

(平成20年9月委員会)

9) 他院にて麻薬鎮痛薬「レミフェンタニル(アルチバ)」の投与ミスがあり、患者が意識不明の重体となる医療事故が発生した事例について、当院においても調査した結果、“病棟で「レミフェンタニル」は使えないのか”と医師から薬剤部に問い合わせが寄せられており、がん疼痛にも使用できる「フェンタニル」と薬剤名が酷似しているため、新しい麻薬鎮痛薬という認識をもたれる可能性がある旨の説明があった。

これを踏まえ、麻薬鎮痛薬「レミフェンタニル」の適正使用(適応:人工呼吸器を装着した全身麻酔のみ)について、関係部署へ注意を促すことを目的に、周知徹底文書を配布した旨の報告があり、了承された。

(平成21年1月委員会)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>【基本指針】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 院内感染防止対策に関する基本的な考え方</li> <li>・ 院内感染防止対策委員会・その他の組織に関する基本的事項</li> <li>・ 院内感染対策のための従業者に対する研修に関する基本方針</li> <li>・ 感染事例報告などの医療にかかわる安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針</li> <li>・ 施設内感染事例発生時の対応に関する基本方針</li> <li>・ 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針</li> <li>・ 患者からの相談への対応に関する基本方針</li> <li>・ その他医療安全の推進のために必要な基本方針</li> </ul>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>患者及び教職員への院内感染を防止し、またその対策を講じ、病院内の環境保全と安全衛生を確保するために、院内感染防止対策委員会を設置し、院内感染防止に関する諸施策及び感染症患者取扱いの基本的事項等について審議する。</p> <p>【委員会での内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前回議事の確認</li> <li>・ 院内ラウンドの報告</li> <li>・ 病原体の検出報告             <ul style="list-style-type: none"> <li>①MRSAと緑膿菌の検出状況</li> <li>②血液培養陽性者リスト</li> <li>③監視培養のMRSA陽性率</li> <li>④病棟別検出菌上位10菌種</li> <li>⑤薬剤耐性菌（MDRP, ESBL, <math>\beta</math>-BL産生菌）検出患者</li> </ul> </li> <li>・ 抗MRSA薬使用状況</li> <li>・ カバペム系薬使用状況</li> <li>・ 第4世代セフェム系抗菌薬の使用状況</li> <li>・ 病棟別抗菌薬使用状況</li> <li>・ 感染症発生報告書提出件数</li> <li>・ ICT委員が知っていると便利な微生物学知識</li> <li>・ その他（その月の審議事項及び事例報告等）</li> </ul> <p>【委員会開催日】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1回 平成20年 4月22日</li> <li>第2回 平成20年 5月27日</li> <li>第3回 平成20年 6月24日</li> <li>第4回 平成20年 7月29日</li> <li>第5回 平成20年 8月19日</li> <li>第6回 平成20年 9月30日</li> <li>第7回 平成20年10月28日</li> <li>第8回 平成20年11月28日</li> <li>第9回 平成20年12月26日</li> <li>第10回 平成21年 1月27日</li> <li>第11回 平成21年 2月24日</li> <li>第12回 平成21年 3月31日</li> </ul>	

<p>③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況</p>	<p>全教職員対象 年 5回 部署別講習 年 3回</p>
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p><b>【全教職員対象講習会】</b></p> <p>第1回 開催日及び参加人数： 平成20年6月26日 831名  演題及び発表者： 『ワクチンと感染症予防』 微生物学 増田道明 先生  小児科学 今高城治 先生  臨床検査部 池田眞由美  保育所 津村勝枝</p> <p>第2回 開催日及び参加人数： 平成20年7月25日 741名  演題及び発表者： 『感染症と感染症法』  栃木県県南健康福祉センター 健康福祉部健康対策課長  渡辺晃紀 先生</p> <p>第3回 開催日及び参加人数： 平成20年11月6日、11日、13日、14日、18日 941名  演題及び発表者： 『知っている得する！感染対策 ノロウイルス&amp;インフルエンザウイルス』  感染防止対策課 奥住捷子  看護部ICT 香取三奈</p> <p>第4回 開催日及び参加人数： 平成21年2月24日 308名  演題及び発表者： 『針刺し切創の現状と防止策』  看護部ICT 香取三奈</p> <p>第5回 開催日及び参加人数： 平成21年3月17日 335名  演題及び発表者： 平成21年3月19日 215名  『平成20年度 ICT活動報告』  臨床検査医学 菱沼 昭 先生、薬剤部 蘇原由貴  看護部ICT 実験グループ、企画・広報グループ、佐藤真弓  看護部ICT 島田江津子、薬剤部 星野浩一</p> <p><b>【部署別講習会】</b></p> <p>第1回 委託職員対象（東武ビルマネジメント、白栄社、東武レストラン）、栄養部  開催日： 平成20年6月4日、6日、11日、13日  参加人数： 284名  内 容： 手洗いと手指消毒の効果</p> <p>第2回 委託職員対象（東武ビルマネジメント、白栄社、東武レストラン、材料部）  開催日： 平成20年11月13日、14日、20日、21日  参加人数： 174名  内 容： 知っている得する！感染対策 ノロウイルス&amp;インフルエンザウイルス</p> <p>第3回 委託職員対象（東武ビルマネジメント、白栄社、東武レストラン）、栄養部  開催日： 平成21年1月21日、22日、平成20年11月18日、20日  参加人数： 243名  内 容： 手の衛生について</p>	

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (  有 ・  無 )
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
  - ・ 多剤耐性菌検出部署での独自マニュアル作成
  - ・ 各部署での感染防止対策マニュアルの作成
  - ・ 日光医療センターで検出された菌や対策についてのコンサルテーションなど
  - ・ とちぎ地域ネットワーク事業で医療安全産業振興セミナーを開き、産学共同で施設内感染対策器具の改善・改良を行っている



医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年4回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○健康被害救済制度について</li> <li>○注射薬を安全に調整するために</li> <li>○抗がん剤の副作用について</li> <li>○麻薬製剤「ディロテップMTパッチ」の適正使用</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 ( ○・無 )</li> <li>・ 業務の主な内容： <p>医薬品の採用、医薬品の購入、調剤室における医薬品の管理、病棟・各部門への医薬品の供給、外来患者への医薬品使用、在宅患者への医薬品使用、病棟における医薬品の管理、入院患者への医薬品使用、医薬品情報の収集・管理・提供、手術・麻酔部門、救急部門・集中治療室、輸血・血液管理部門、生命維持管理装置領域、臨床検査部門、画像診断部門、歯科領域、他施設との連携、事故発生時の対応、教育・研修。</p> </li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 ( ○・無 )</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 同一薬品名で2種以上の規格のある医薬品の調剤容器への警告標の提示</li> <li>○ 類似名称のある調剤容器に、類似名称が存在する旨と、名称の異なる点の強調警告標の提示</li> <li>○ カリウム製剤アンプルのワンポイント部分への「静注禁止」と記載したシールの貼付</li> <li>○ ハイリスク薬における併用禁忌薬の具体的医薬品名を書き出したチェック標の提示</li> <li>○ バラ錠のタブレットケースへ充填時の2名によるダブルチェック</li> <li>○ 薬剤師による消化器系の入院患者の抗がん剤の無菌調製の開始</li> </ul> </li> </ul>	

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年22回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>医療安全対策講習会（人工呼吸器・除細動器）3回</li> <li>臨床工学部による病棟単位の人工呼吸器勉強会（取扱説明等）5回</li> <li>臨床工学部による人工心肺装置及び補助循環装置勉強会（取扱説明等）2回</li> <li>臨床工学部による血液浄化装置勉強会（取扱説明等）4回</li> <li>製造販売業者による閉鎖式保育器研修会（取扱説明等）1回</li> <li>製造販売業者による診療用高エネルギー放射線発生装置勉強会（取扱説明等）4回</li> <li>製造販売業者による診療用放射線照射装置勉強会（取扱説明等）3回</li> </ul> </li> </ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画の策定 （有・無）</li> <li>・ 保守点検の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>保守点検記録表に基づく点検の実施</li> <li>保守点検記録表の保管・管理</li> </ul> </li> </ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無）</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> <li>医療機器の安全使用のために必要な不具合情報や安全性情報を、製造販売業者等から収集し、病院長及び医療機器安全管理責任者へ報告するとともに、関連部署へ周知徹底</li> <li>医療機器の添付文書・取扱説明書等の保管・管理</li> </ul> </li> </ul>	